I-O DATA

HDXGシリーズ
取扱説明書

株式会社アイ・オー・データ機器

93463-05

必ずお守りください

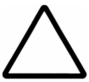
ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

This product is for use only in Japan.　We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.

警告および注意表示

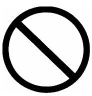
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵記号の意味



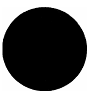
この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）  「発火注意」を表す絵表示

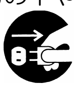


この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）  「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）  「電源プラグを抜く」を表す絵表示

警告

厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。

電源プラグを抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源を切ってコンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

分解禁止

本製品を修理・改造・分解しないでください。

火災や感電、やけど、動作不良の原因になります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。

発火注意

本製品を取り付ける場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因になります。

厳守

本製品の取り付け、取り外しの際は、必ず本書で、取り付け取り外し方法をご確認ください。

間違った操作を行うと火災・感電・動作不良の原因となります。

禁止

本体を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。

火災・感電の原因となります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。

禁止

濡れた手で本製品を扱わないでください。

感電や、本製品の故障の原因となります。

⚠ 注意

注意

本製品を使用中にデータなどが消失した場合でも、データなどの保証は一切いたしかねます。

ハードディスクは消耗品です。

故障に備えて定期的にバックアップをお取りください。

禁止

本製品は以下のような場所で保管・使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

●振動や衝撃の加わる場所
●直射日光のあたる場所
●湿気やホコリが多い場所
●温度差の激しい場所
●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
●強い磁力電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
●水気の多い場所（台所、浴室など）
●傾いた場所
●腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
●静電気の影響の強い場所

禁止

アクセスランプ点灯中に本製品やパソコンの電源を切らないでください。

パソコンをリセットしたり、省電力モード（スタンバイ／休止／スリープなど）にもしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

禁止

本製品は精密部品です。以下の注意をしてください。

●落としたり、衝撃を加えない
●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
●重いものを上にのせない
●本製品のそばで飲食・喫煙などをしない

厳守

本体についた汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。

●洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めてご使用ください。

●ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。

●市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因となります。

禁止

本製品内部で結露させたまま使わないでください。

時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。

本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、内部が結露する場合があります。

そのまま使うと誤動作や故障の原因となる場合があります。

禁止

本製品内部およびコネクタ部に液体、金属、たばこの煙などの異物が入らないようにしてください。

厳守

動作中にケーブルを激しく動かさないでください。

接触不良およびそれによるデータ破壊などの原因となることがあります。

使用上のご注意

●本製品を廃棄あるいは譲渡などされる際の注意事項

・本製品に記録されたデータは、OS上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業を行っただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。

その結果として、情報が漏洩してしまう可能性がありえます。

注意

ハードディスク上のソフトウェアについて

ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくハードディスクを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。

・情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のためのソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめいたします。

ハードディスクデータ消去ソフトのご案内

ただいま（2003年11月現在）特典サービス実施期間中につき、弊社の「Disk Refresher LE」を下記のWebページよりご入手いただけます。

専用Webページ	http://www.iodata.jp/pr/2002/dref_bonus/

お読みになる前に

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
お使いの前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

呼び方

呼び方	意　味
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System, Microsoft® Windows® XP Professional Operating System
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating System, Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Version 4.0 Operating System
Windows Me/98/95	Windows Me,Windows 98,Windows 95の総称
Windows Me/98/95/ NT 4.0	Windows Me,Windows 98,Windows 95,Windows NT 4.0

マークの説明

注意
本製品を使う上で、注意すべきことが書かれています。

参考
本製品を使う上で、役に立つことが書かれています。

もくじ

はじめに

特長

●マルチドライブ（Multi Drive）機能搭載

マルチドライブ機能とは、本製品の容量を２分割して仮想的に２台のハードディスクとして使用する機能です。
この機能で作成した２台のハードディスクは、本製品背面のスイッチでモードを変更するだけで、順番を入れ替えたり、どちらか一方のみをパソコンに認識させることができます。
もちろん、全容量を１台のハードディスクとして使用することも可能です。

《マルチドライブ機能の利点》

・面倒な手順が必要なマルチOS環境※も簡単に作成可能

異なるOS環境をモード切替だけで簡単に実現できます。

（マルチOS環境の作成方法およびマルチOS環境の作成による問題に関しては弊社は一切サポートいたしかねます。ご了承ください。）

・１台のパソコンを複数のユーザー※で共有する際に便利

使用OSの環境などをユーザーごとに分けてカスタマイズ可能です。
オフィスなどで、簡単にパソコンの共有使用を実現できます。

・バックアップに便利

２分割した任意の一方にデータを待避し、パソコンに認識させないようにすることで、誤操作などによるデータ消失を回避できます。

※SCSIハードディスクを起動ドライブとして使用できる環境が必要です。

・BIOSを搭載しているSCSIボードでそのBIOSが使用するハードディスクの容量をサポートしている必要があります。

・IDEドライブを取り外すか、無効にします。
既にIDEハードディスクがありますと、IDEが優先となりSCSIから起動することはできません。
設定方法についてはご使用のパソコンによって異なりますので本体メーカーにご相談ください。

●自己診断機能（74,81ページ参照）

添付のユーティリティソフトにより、本製品の自己診断を行えます。
ベリファイチェックを選択することで、スキャンディスクの［完全］とほぼ同じ診断を「より高速に」行います。
また、弊社製 SCSIインターフェイス SC-UPCIシリーズとの組み合わせでお使いの場合、電源投入時に自動的に自己診断を行います。

●省電力機能（75,83ページ参照）

ハードディスクの独立した機能として省エネモードを搭載。一定時間ドライブを読み書きしない場合、自動的に低消費電力モードに移行する機能をサポートしました。

●ドライブロック機能（60,67,76,84ページ参照）

ドライブをパスワードによりロックし、ハードディスクとして使えない状態にする機能。
パスワードを入力すれば、また普通にお使いいただけるようになります。
※HDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティかeasy Boot Menuを使えば、本製品をプログラムモードにすることなく機能をお使いいただけます。

●マルチドライブ分割比率変更機能（57,64,85ページ参照）

マルチドライブモードで分割した各ドライブの分割比率／容量を、任意に設定することができます。

●easy Boot Menu

弊社製 SCSIインターフェイス SC-UPCIシリーズとの組み合わせでお使いいただいた場合、OSを立ち上げる前に「easy Boot Menu」により本製品の各種設定機能をお使いいただけます。

●内蔵ターミネータ搭載

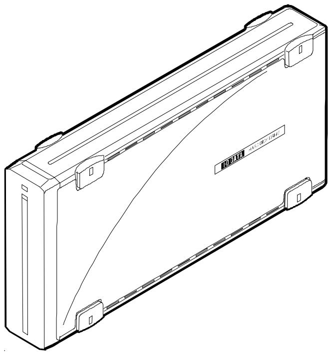
箱の中には

箱の中には以下のものが入っています。

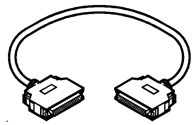
☐ にチェックをつけながら、ご確認ください。

万が一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

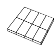
☐ **ハードディスク(1個)**
[HDXGシリーズ]



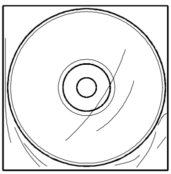
☐ **SCSI接続ケーブル(1本)**
[D-subハーフピッチ50ピン⇔
D-subハーフピッチ50ピン
50cm]



☐ **ラバーフット(8個×1枚)**
※ 取扱説明書と同じ袋に入っています。



☐ **HDXGシリーズサポートソフト(1枚)**



- Super Multi Drive設定ユーティリティ
- HDXGシリーズ診断・設定ユーティリティ

☑ **HDXGシリーズ取扱説明書(本書:1冊)**

☐ **ハードウェア保証書(1枚)**

参考

箱・梱包材は

大切に保管し、修理などで輸送の際にお使いください。

イラストについて

実物と若干異なる場合があります。

ユーザー登録

▼ここにシリアル番号をメモしてください。

※ シリアル番号は、本製品に貼られているシールにある12桁の英数字（例：ABC1234567ZX）です。
シリアル番号は、ユーザー登録の際に必要です。

●ユーザー登録　⇒　http://www.iodata.jp/regist/

動作環境

本製品を使うことのできるパソコン環境を説明します。

対応機種および対応OS

次の条件を満たすこと

・本製品を接続できるSCSIコネクタがあること。
・ソフトを使用する場合、CD-ROMドライブがあること。

対応機種	対応OS(日本語版のみ)
NEC PC98-NXシリーズ DOS/Vマシン※1	Windows XP, Windows 2000, Windows Me, Windows 98※2, Windows 95※3, Windows NT 4.0※4
Apple Macintosh※5※6※7※8※9	Mac OS※10

※1　弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認をしています。

※2　Second Editionを含みます。また、FDISKのアップデートが必要です。
このホームページから、FDISKのアップデートをしてください。

http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;263044

※3　OSR 2以降のみ対応です。
また、80Gバイト以上の本製品は対応しておりません。

※4　Service Pack 4以降のみ対応です。
「Service Pack」のバージョンの確認方法は、次ページをご覧ください。

※5　MPU MC68040およびPowerPCを搭載している機種のみ対応です。
ただし、PowerBookについては、2400,3400,G3/250以降のみ対応です。

※6　別途SCSIケーブルが必要になる場合があります。
また、パソコン標準のSCSIコネクタではUltra SCSI転送の性能では利用できません。

※7　iMac,iBookには対応しておりません。

※8　M6665J/A、M7553J/Aに標準装備のLVD SCSIインターフェイスボードには対応しておりません。

※9　HDXGシリーズ診断・設定ユーティリティは未対応です。

※10　本製品に対応しているフォーマッタソフトが必要です。
ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew for Macintosh」を推奨します。
ただし、標準SCSIポート（D-sub25ピンもしくはHDI-30ピン）に接続して本製品をお使いの場合は、B'sCrew 2.1.6以降もしくは3.1.2以降を推奨。
（ただし、Mac OS Ｘでは、フォーマッタソフトは必要ありません。）

参考

Windows NT 4.0 Service Packのバージョン確認方法

①「マイコンピュータ」の［ヘルプ］→［バージョン表示」をクリックします。

②表示されたメッセージの［Service Pack］のあとに表示される数字がバージョンになります。

「Service Pack」の最新版は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードできます。

http://www.microsoft.com/japan/

ソフトの動作環境について

ソフトの動作環境はこれとは異なります。

Super Multi Drive設定ユーティリティ・・・・・・・・・・・・・・・・・・56ページ
HDXGシリーズ診断・設定ユーティリティ・・・・・・・・・・・・・・・・・72ページ

推奨SCSIインターフェイス

機種	弊社製SCSIインターフェイス
PC98-NXシリーズ DOS/Vマシン	SC-UPCIシリーズ※1, SC-UPCINシリーズ※1, SC-UPN※1, SC-UPU2※1, CBSCⅡシリーズ※2, SC-NBDシリーズ※2, SC-NBUN

※1　BIOS Ver.1.66（サポートソフト Ver.4.02）以上であることを確認してください。バージョンは、パソコン起動時、画面に表示されます。
BIOSのバージョンアップ方法については、SCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

※2　SCSIインターフェイスに添付のASPIFORMでフォーマットする必要があります。

参考

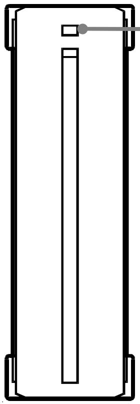
パソコンに複数枚のSCSIインターフェイスを接続している方へ

Windows Me/98/95で、複数枚のSCSIインターフェイスを接続している場合は動作の保証はいたしかねます。

各部の名称・機能

各部の名称および機能の確認をします。

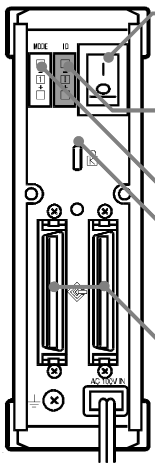
●前面



電源ランプ
　電源投入時に、緑色に点灯します。

アクセスランプ
　読み書き中に、赤色に点灯します。

● 背面



電源スイッチ　本製品の電源を入／切します。

SCSI-ID設定スイッチ
　SCSI-IDを設定します。
　　【SCSI-IDを設定しよう】(18ページ)

モードスイッチ
　動作モードなどを設定します。
　　【モードを設定しよう】(11ページ)

ケンジントンスロット
　対応したロックケーブルを購入し、取り付けます。
　　【用語解説】(103ページ)

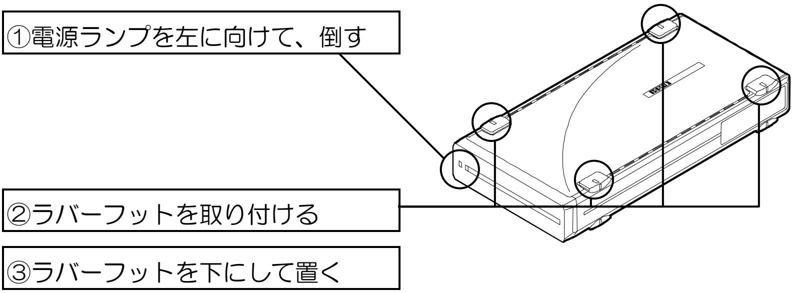
SCSIコネクタ(D-subハーフピッチ50ピン)
　SCSIケーブルや外付ターミネータ※を接続します。
　※内蔵ターミネータを使う場合は、外付ターミネータは必要ありません。17ページ参照。

添付品を取り付けよう

添付品の取り付けについて説明します。

横置きで使う

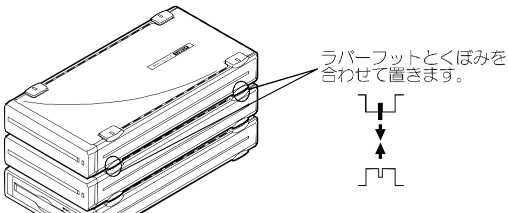
本製品を安定した場所に電源ランプを左に向けて置き、４個所にラバーフットを取り付けます。



参考

重ねて使う

MOX-SXシリーズやHDXGシリーズと重ねて置けます。
下の図をご覧になり、重ねてください。

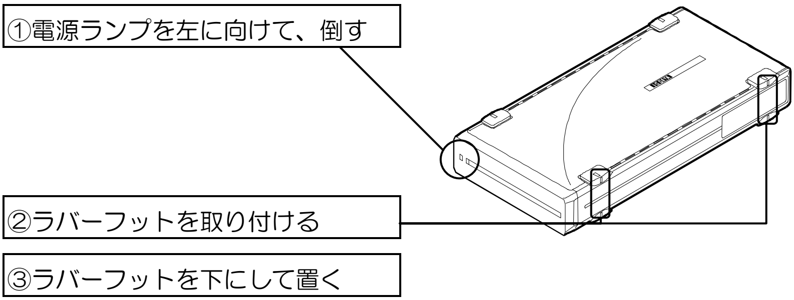


横置きで使うときの注意

- 積み重ねられるドライブは３台までです。
- 短いケーブルが必要な場合は、別途オプション品（弊社製「A50-A50-SS」など）をお買い求めください。
- MOドライブは一番下に置いてください。

縦置きで使う

本製品を安定した場所に電源ランプを左に向けて置き、４個所にラバーフットを取り付けます。



モードを設定しよう

ここでは、本製品のモードスイッチの設定について説明します。

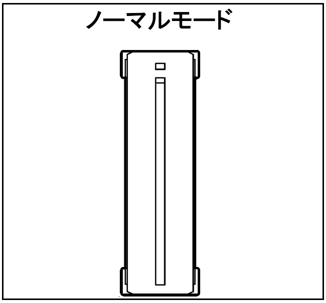
モードとは？

本製品のモードは、全部で３種類あります。

●ノーマルモード(出荷時設定)

本製品を１台のハードディスクとしてお使いになるためのモードです。
マルチドライブモードの機能（次ページ）をとくに必要としない方は、こちらのモードをお使いになることをおすすめします。

例えば、HDXG-S40の場合、40Gバイトのハードディスクとなります。



ノーマルモードの利点

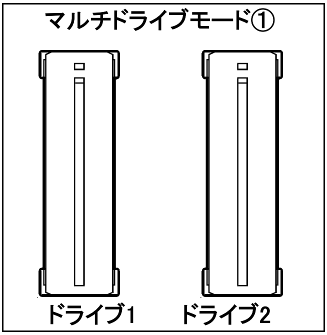
本製品を１台のハードディスクとして使うので、ドライブの容量をそのまま利用できます。大きなファイルを使う方に最適です。

●マルチドライブモード

本製品を２台のハードディスク（ドライブ）のようにお使いになるためのモードです。

分割した２つのドライブはそれぞれ「ドライブ１」、「ドライブ２」と呼称します。

例えば、
HDXG-S40（容量40Gバイト）を「マルチドライブモード①」に設定すると、２つに等分割（20Gバイトずつ）されたハードディスクとして使用できます。
※ 本項の図はイメージ図です。





マルチドライブモードの利点

・２つのドライブの順番を入れ替えることができます。
　モード①が通常の状態、モード②が逆順になります。
　⇒認識する順番が変わるので、マルチOSに便利です。
・片方を隠し、もう片方のみを使うことができます。
　モード③でドライブ1のみ、モード④でドライブ2のみになります。
　⇒大事なデータを入れて、普段は隠しておけばデータを守るのに便利です。
・ドライブの容量を分けることができます。
　⇒Windows 95でお使いの場合、ノーマルモードでは本製品の全容量を使えません。マルチドライブモードを使うことで対応することができます。
　また、添付のユーティリティを使えば、分割する容量の比率を変更することができます。
　【特長】(2ページ)をご覧ください。

●プログラムモード

本製品を設定するためのモードです。

このモードにすると、本製品はハードディスクとして認識されません。

通常、本製品を使うときには設定しません。

このモードのまま接続してWindowsを起動すると･･･

新しいハードウェアとして認識されて、画面が表示されます。

［キャンセル］ボタンを押して、画面を閉じてください。

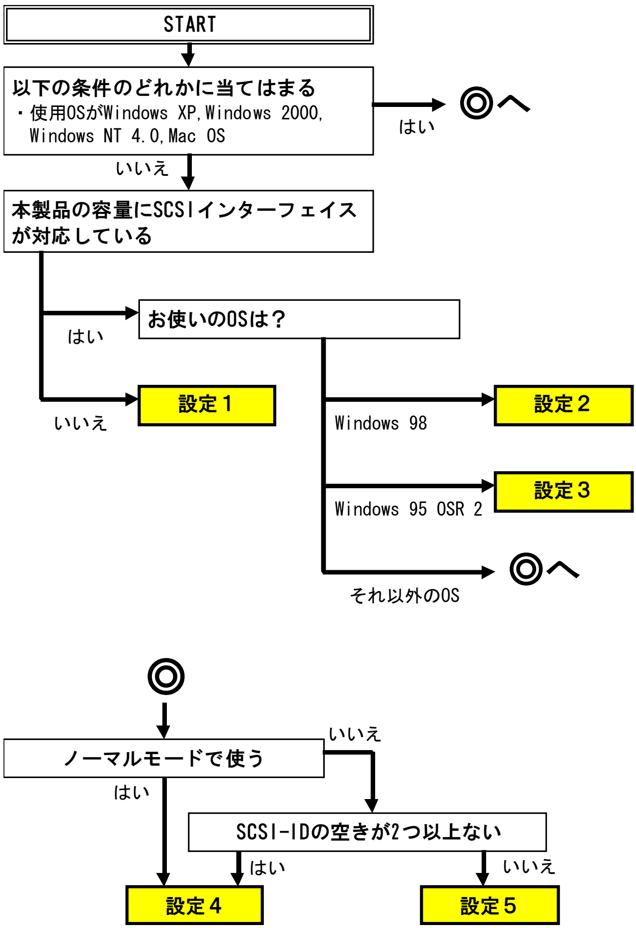
プログラムモードの特徴

・ハードディスクとして認識されなくなります。

・添付のユーティリティで特定の機能を使う際に必要です。

モード決定表

本製品のモードを決める際の参考にお使いください。



設定1

・本製品の半分の容量にSCSIインターフェイスが対応している場合

「マルチドライブモード」に設定すれば、本製品の全容量をお使いいただけます。

・本製品の半分の容量にSCSIインターフェイスが対応していない場合

対応している容量までは使えるSCSIインターフェイスの場合

「マルチドライブモード」に設定すれば、本製品をお使いいただけますが、本製品の全容量はお使いいただけません。

対応している容量を超えると使えないSCSIインターフェイスの場合

「マルチドライブモード」で片方のドライブをSCSIインターフェイスの対応容量ぎりぎりまでに設定し、そのドライブのみをお使いください。

設定2

・本製品の容量が137G以上の場合

「マルチドライブモード」かパーティションで、各ドライブの容量が約137Gバイトを超えないように設定してください。

前ページの◎にお進みください。

・本製品の容量が137G未満の場合

前ページの◎にお進みください。

設定3

「マルチドライブモード」にのみ対応です。

各ドライブの容量が約32Gバイトを超えないように設定してください。

設定4

「ノーマルモード」でお使いいただけます。

設定5

「マルチドライブモード」でお使いいただけます。

モードを設定する

モードスイッチでは、モードとターミネータを設定できます。

注意

モードをノーマル⇔マルチドライブで切り替える場合
そのままでは使えません。
【ノーマル⇔マルチドライブで切り替える】(100ページ)をご覧ください。

● ノーマルモードの設定

参考

モードスイッチを設定する際のヒント

SCSI機器が本製品だけの場合
モードスイッチ=8（初期値。変更の必要はありません。）

本製品を終端に取り付ける場合
モードスイッチ=8（初期値。変更の必要はありません。）

本製品のあとにSCSI機器を取り付ける場合
モードスイッチ=0

● マルチドライブモードの設定

参考

最初にモードスイッチを設定する際のヒント

SCSI機器が本製品だけの場合
モードスイッチ=11

本製品を終端に取り付ける場合
モードスイッチ=11

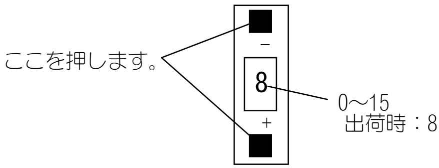
本製品のあとにSCSI機器を取り付ける場合
モードスイッチ=3

マルチドライブモードの種類
マルチドライブ①：ドライブ1、ドライブ2の順になります。
マルチドライブ②：ドライブ2、ドライブ1の順になります。
マルチドライブ③：ドライブ1のみになります。
マルチドライブ④：ドライブ2のみになります。

● モードスイッチの設定

本製品の電源を切ってください
モードスイッチの設定をするときは、本製品の電源を切ってから行ってください。

本製品のモードスイッチで、動作モードと内蔵ターミネータについて設定します。
図の黒い部分を先の固いシャープペンシルなどで押して、設定します。



《モードスイッチ動作表》

モードスイッチ	動作モード	内蔵ターミネータ
0	ノーマル	OFF
1	未使用	
2	未使用	
3	マルチドライブ①	
4	マルチドライブ②	
5	マルチドライブ③	
6	マルチドライブ④	
7	プログラム	
8※	ノーマル	ON
9	未使用	
10	未使用	
11	マルチドライブ①	
12	マルチドライブ②	
13	マルチドライブ③	
14	マルチドライブ④	
15	プログラム	

※ 出荷時設定

SCSI-IDを設定しよう

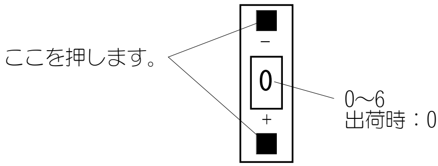
ここでは、本製品のSCSI-IDの設定について説明します。

注意

本製品の電源を切ってください
SCSI-IDの設定をするときは、本製品の電源を切ってから行ってください。

● SCSI-IDの設定

本製品のSCSI-ID設定用スイッチで、0～6の間で設定します。
（7は通常SCSIインターフェイスが使用）
図の黒い部分を先の固いシャープペンシルなどで押して、設定します。



≪使用するSCSI-ID≫

SCSI-ID設定用スイッチ	0	1	2	3	4	5	6	7
ノーマルモード	0	1	2	3	4	5	6	設定不可
マルチドライブモード	0,1	1,2	2,3	3,4	4,5	5,6	設定不可	設定不可

参考

SCSI-IDを設定する際のヒント(ノーマルモードの場合)

本製品のみを接続している場合
SCSI-ID=0：本製品（初期値。変更の必要はありません。）
Macintoshでお使いの場合は、次ページの表を見て重ならないように
ご注意ください。

複数のSCSI機器を接続している場合
他のSCSI機器と重ならないように、SCSI-IDを設定してください。

SCSI-IDを設定する際のヒント(マルチドライブモードの場合)

本製品のみを接続している場合
SCSI-ID=0：本製品（初期値。変更の必要はありません。）
Macintoshでお使いの場合は、次ページの表を見て重ならないように
ご注意ください。

複数のSCSI機器を接続している場合
他のSCSI機器と重ならないように、SCSI-IDを設定してください。
その際、SCSI-IDを２つ使うことにご注意ください。

●Macintoshシリーズが既に使っているSCSI-ID

Macintoshで使われているSCSI-IDを記載します。
この表に記載されているSCSI-IDは使わないでください。

[デスクトップ]

使用SCSI-ID	機 種 名
7※1	PowerMacintosh G3 DTｼﾘｰｽﾞ，MTｼﾘｰｽﾞ PowerMacintosh 9600，9515，9500，8600，8515，8500，8115， 8100，7600，7500，7300，5500，4400 twentieth anniversary Macintosh Quadra 950，900 LC630※2
0、7	Quadra 800※2，700 Centris 650※2，610※2 Macintosh Ⅱｼﾘｰｽﾞ（Ⅱを除く，またvi，vxはCDなしモデルの場合） LC Ⅱ，Ⅲ，475 Performa 275 Color Classic Ⅰ，Ⅱ SE/30 Classic Ⅱ
3、7	PowerMacintosh 6300，6200 LC630※3 Performa 6000ｼﾘｰｽﾞ，5000ｼﾘｰｽﾞ，630，588
0、3、7	PowerMacintosh 7215，7200，7100，6100 Quadra 840AV，800※3，660AV，650，610 Centris 650※3，610※3 Macintosh Ⅱ vi※3，vx※3 Performa 575，550，520 LC575，520

※1…………Zipドライブを搭載している場合は、さらにSCSI-IDの５を使っています。
※2…………CD-ROMドライブなしのモデル
※3…………CD-ROMドライブ搭載モデル

[PowerBook（ノート）]

使用SCSI-ID	機 種 名
7	PowerBook G3ｼﾘｰｽﾞ※4 PowerBook G3/250，3400，2400，1400，1000，190
0、7	PowerBook Duoｼﾘｰｽﾞ（別途SCSIポートのあるﾄﾞｯｷﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝが必要） PowerBook 500ｼﾘｰｽﾞ，100ｼﾘｰｽﾞ（100，190を除く）

※4…………標準SCSIポート搭載機種のみ対応。

取り付けよう

ここでは、本製品を取り付ける手順について説明します。

参考

SCSIの制限があります

お使いのSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧になり、接続可能台数やSCSI接続ケーブル長の制限を超えていないことをご確認ください。

ケーブルを接続するときは

まっすぐに接続してください。
無理な角度で接続するとピンが折れる場合があります。
接続の際は「カチッ」と音がするまで差し込み、軽く引っ張っても抜けないことをご確認ください。

本製品以外にもSCSI機器をお使いの場合は

本製品を接続する際には、なるべく終端に接続してください。
終端に接続できない場合は、できるだけ短いケーブル（弊社製 A50-A50-S(30cm),A50-A50-SS(10cm)など）をお使いください。

1 SCSIインターフェイスを使えるようにします。

SCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照になり、先にSCSIインターフェイスの設定をしてください。

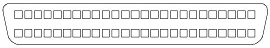
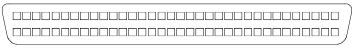
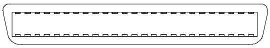
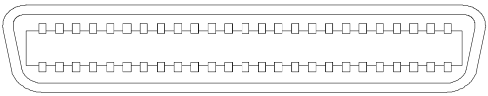
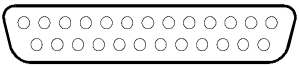
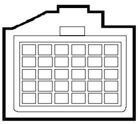
2 SCSI機器に接続する場合は、ターミネータを取り外します。

接続済みのSCSI機器に、本製品を接続する場合は、そのSCSI機器のSCSIコネクタに接続されているターミネータを取り外します。

3 SCSIインターフェイス側のSCSIコネクタにSCSI接続ケーブルを接続します。

実際に接続するSCSIコネクタと見比べてお使いください。

本ページのコネクタ図はほぼ実物大です。

 (D-subハーフピッチ50ピン)	本製品に添付のSCSI接続ケーブルをお使いください。
 (D-subハーフピッチ68ピン)	本製品に添付のSCSI接続ケーブルとAD-SC/AW(D-subハーフピッチ50ピン⇒D-subハーフピッチ68ピン変換コネクタ)をお使いください。
 (アンフェノールハーフピッチ50ピン)	A50-H50など(D-subハーフピッチ50ピン⇔アンフェノールハーフピッチ50ピン)をお使いください。
 (アンフェノールフルピッチ50ピン)	F50-A50など(アンフェノールフルピッチ50ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン)をお使いください。
 (D-sub25ピン)	お使いのSCSIインターフェイスに添付のSCSI接続ケーブル、またはお使いのSCSIインターフェイスの別売オプション品をお使いください。
 (HDI30ピン)	AP30-A50など(HDI30ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン) をお使いください。
? (その他)	お使いのSCSIインターフェイスに付属しているSCSI接続ケーブル、もしくはお使いのSCSIインターフェイスの別売オプション品をお使いください。

参考

案内されている弊社製SCSI接続ケーブル以外を使う場合

お使いになるSCSI接続ケーブルは、片方はSCSIインターフェイスや本製品の前にあるSCSI機器のコネクタの形状に、もう片方はD-subハーフピッチ50ピンのSCSIコネクタに接続できるものを選んでください。

4 本製品のSCSIコネクタにSCSI接続ケーブルを接続します。

接続したSCSI接続ケーブルのもう一方を、本製品のSCSIコネクタに、まっすぐに差し込みます。（左右どちらのSCSIコネクタでも可）

参考

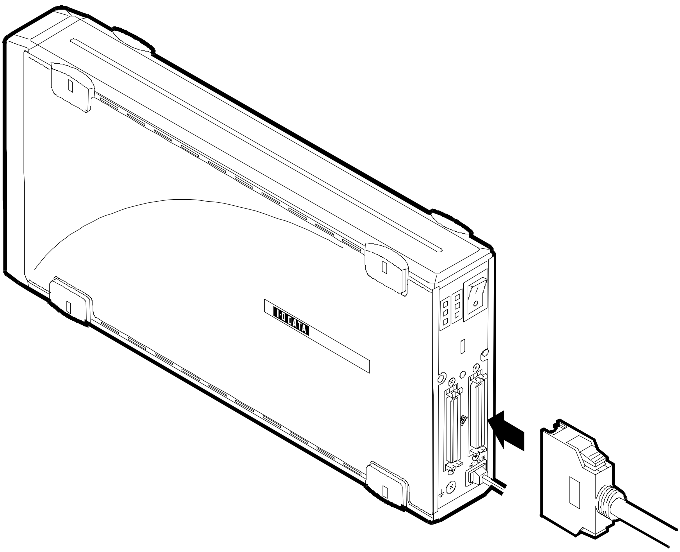
SCSIコネクタについて

左右のSCSIコネクタに区別はありません。
SCSI接続ケーブルをどちらに接続しても問題ありません。

注意

内蔵ターミネータをONにしてください

本製品が終端になる場合は、【モードを設定する】(16ページ)をご覧の上、内蔵ターミネータがONになるようにモードスイッチを設定してください。
外付ターミネータを接続する場合は、内蔵ターミネータをOFFにしてください。



5 ACプラグを電源コンセントに接続します。

確認しよう

本製品を接続した後、接続・設定が正しく行われているかどうかを確認します。

本製品を接続したパソコンを起動する

参考

パソコンの起動方法について
ここで説明している方法は、一般的なSCSIインターフェイスのものです。
SCSI PCカードなど起動方法が異なるものもあります。
詳しくはSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

1 本製品を含むSCSI機器の電源を入れます。

2 パソコンの電源を入れます。

注意

パソコンが起動しない
モードスイッチ、SCSI-ID設定スイッチ、接続をご確認ください。

3 起動途中にデバイススキャンを確認します。

パソコンが起動する途中で、SCSIインターフェイスが接続しているSCSI機器を画面に表示します。そこに本製品の名称が表示されているかどうかを確認します。

※ デバイススキャンの表示は短時間で消えるので、ご注意ください。

SCSIインターフェイスによっては、デバイススキャンされないことがあります。その場合は、この手順は飛ばしてください。

参考

本製品の表示
ノーマルモードの場合‥‥‥‥‥‥「HDXG-Sxx」
マルチドライブモードの場合
ドライブ１‥‥‥‥‥‥「HDXG-Sxx-1」
ドライブ２‥‥‥‥‥‥「HDXG-Sxx-2」
※ 「xx」には本製品の容量が入ります。

注意

デバイススキャンに表示されない
モードスイッチ、SCSI-ID設定スイッチ、接続をご確認ください。

Memo

フォーマットしよう

Windows XPでのフォーマット

Windows XPで本製品をフォーマットするための説明をします。

コンピュータの管理者でログオンしてください
Windows XPでハードディスクをフォーマットする場合は、コンピュータの管理者グループに属するユーザーでログオンする必要があります。

1 「コントロールパネル」を起動します。

［スタート］→［コントロールパネル］の順にクリックします。
⇒［コントロールパネル］が起動されます。

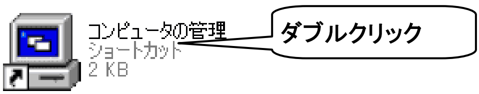
2 「管理ツール」を起動します。

［パフォーマンスとメンテナンス］→［管理ツール］の順にクリックします。
⇒［管理ツール］が起動されます。



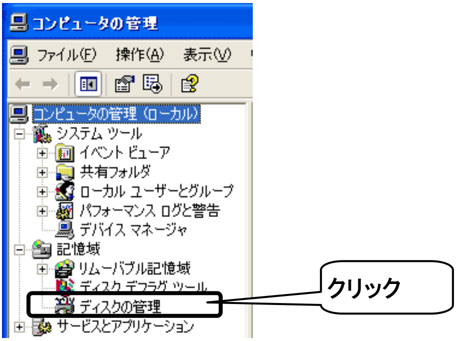
3 [コンピュータの管理]をダブルクリックします。

⇒［コンピュータの管理］が起動されます。



4 [ディスクの管理]をクリックします。

⇒「ディスクの初期化と変換ウィザード」が表示されます。



注意

「ディスクの初期化と変換ウィザード」が表示されない

・Home Editionでお使いの場合は、下の「Home Editionでお使いの場合」をご覧ください。

・ハードディスクが正しく接続されていません。

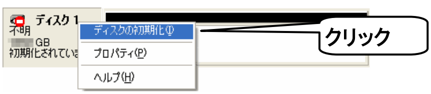
・表示されない設定になっています。
ハードディスクのアイコンを右クリックし、表示された［ディスクの初期化］をクリックしてください。

・ハードディスクは初期化されています。
手順 9 (30ページ)へお進みください。

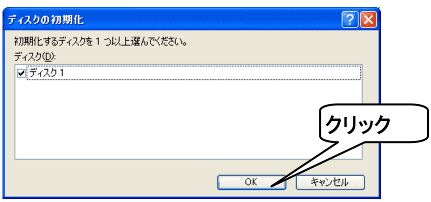
Home Editionでお使いの場合

「ディスクの初期化と変換ウィザード」は表示されません。下記の手順を行ってください。

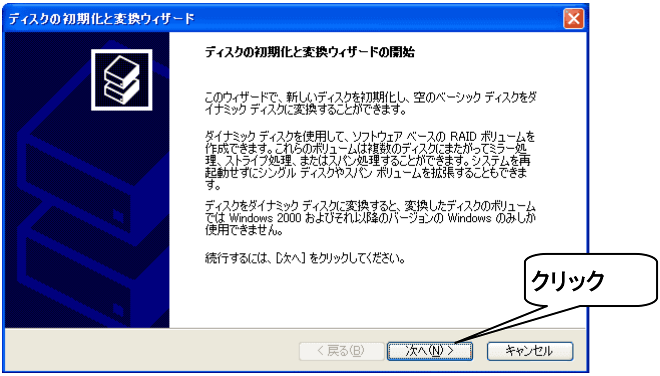
①「初期化されていません」と表示されているディスクを右クリックし、表示された［ディスクの初期化］をクリックします。



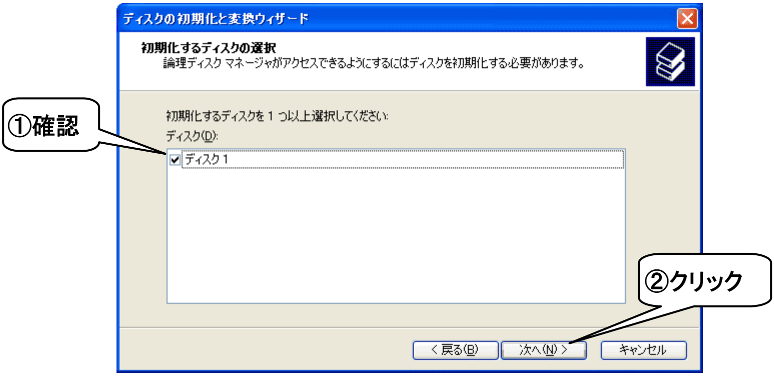
②［OK］ボタンをクリックします。
⇒初期化されました。手順 9 (30ページ)へお進みください。



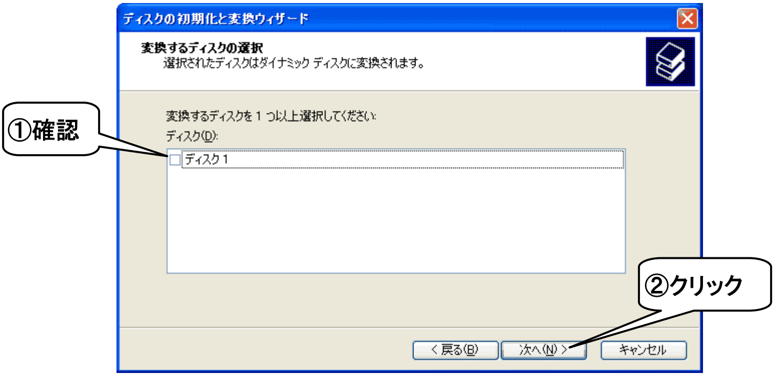
5 [次へ]ボタンをクリックします。



6 [次へ]ボタンをクリックします。



7 下の画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。



ここでチェックしてしまうと･･･

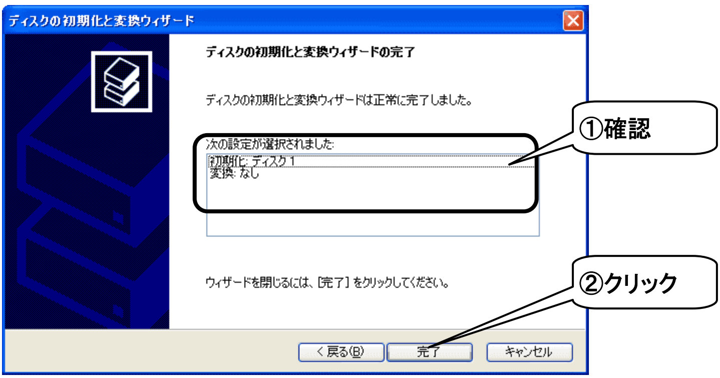
「ダイナミックディスク」となります。「ダイナミックディスク」は、Windows Me/98などで使えません。

詳細は、Windows XPの取扱説明書、オンラインヘルプをご覧ください。

8 設定を確認して、[完了]ボタンをクリックします。

設定が正しいことを確認し、［完了］ボタンをクリックします。

⇒初期化が行われます。ディスクの初期化が完了しました。

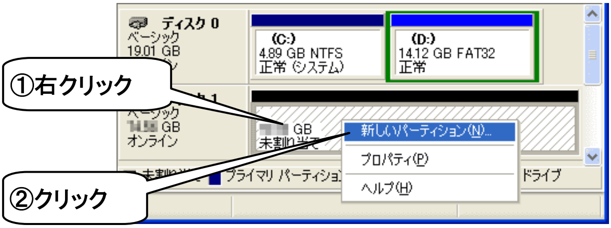


9 「新しいパーティションウィザード」を起動します。

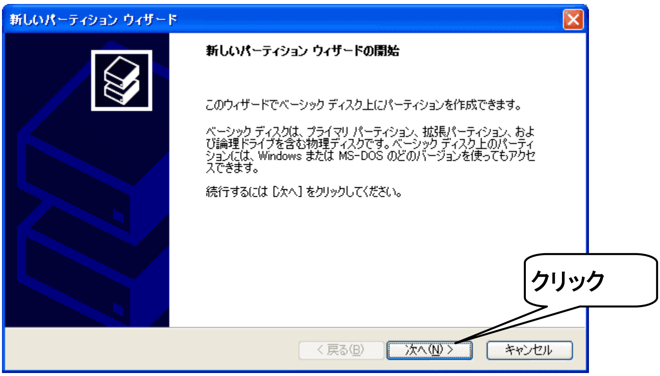
①フォーマットしたいハードディスクの未割り当ての領域を右クリックします。

②表示された［新しいパーティション］をクリックします。

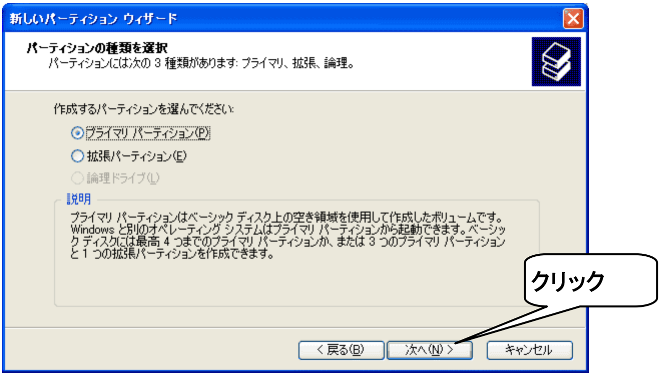
⇒「新しいパーティションウィザード」が起動します。



10 ［次へ］ボタンをクリックします。



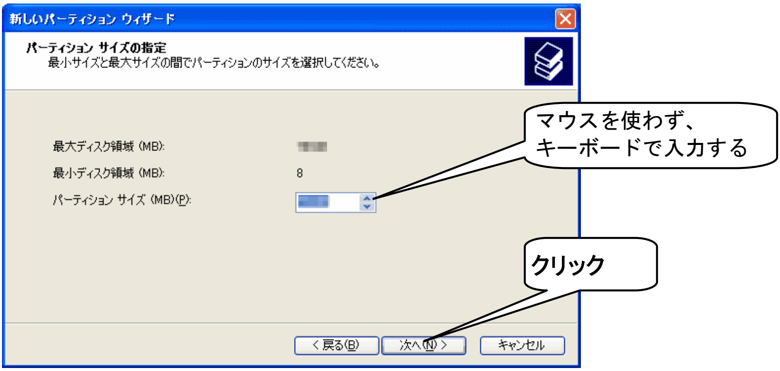
11 [次へ]ボタンをクリックします。



拡張パーティションについて

ここでは、［拡張パーティション］を選ぶこともできます。
ハードディスクを５つ以上に分割したい場合は、「拡張パーティション」を作成する必要があります。
詳細は、Windows XPの取扱説明書、オンラインヘルプをご覧ください。

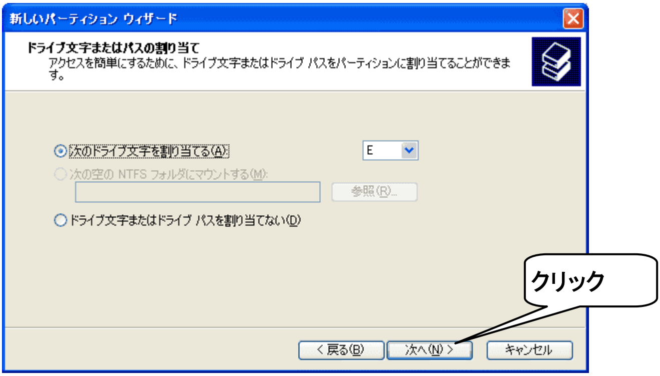
12 [次へ]ボタンをクリックします。



パーティションサイズについて

ここでは、最大値のままの設定にされています。
ハードディスクを分割したい場合は、［パーティションサイズ］を［最大ディスク領域］より小さくする必要があります。
詳細は、Windows XPの取扱説明書、オンラインヘルプをご覧ください。
※ サイズを変更するときは、マウスで変更せず、キーボードで値を入力してください。

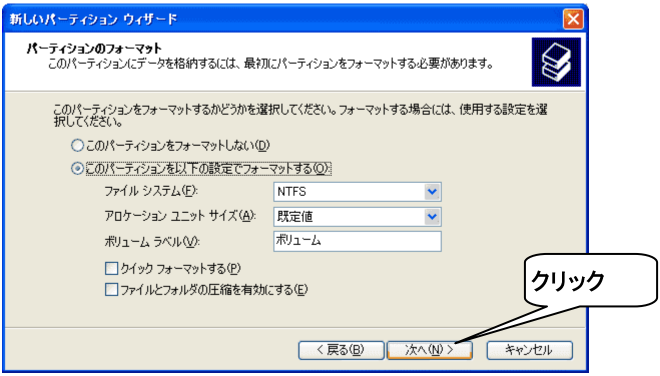
13 [次へ]ボタンをクリックします。



ドライブ文字について

ここで割り当てたドライブ文字が、作成するドライブのドライブ文字になります。

14 [次へ]ボタンをクリックします。



ファイルシステムについて

ハードディスクをWindows XPのみで使う場合は、[NTFS] のままにしてください。

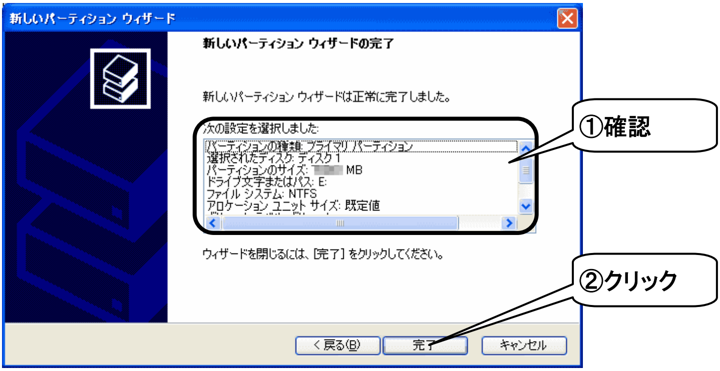
他のOSでも使う場合は、使うOSにも対応したファイルシステムをお使いください。

詳しくは、【ファイルシステムについて】(98ページ)をご覧ください。

15 設定を確認して、[完了]ボタンをクリックします。

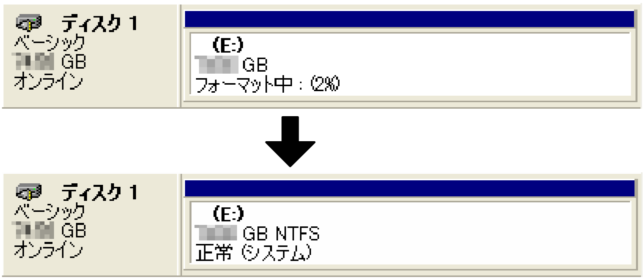
設定が正しいことを確認し、［完了］ボタンをクリックします。

⇒パーティションの作成とフォーマットが行われます。



16 フォーマットされます。

［フォーマット中］が［正常］になるまでお待ちください。



17 [コンピュータの管理]を閉じます。

☒ ボタンをクリックします。

以上で本製品はフォーマットされました。
フォーマット後は、再起動せずにそのまま本製品を使えます。

> 参考
>
> **作成したパーティションの次回からのフォーマットについて**
> 本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

Windows 2000でのフォーマット

Windows 2000で本製品をフォーマットするための説明をします。

参考

Administratorでログオンしてください
Windows 2000でハードディスクをフォーマットする場合は、Administratorグループに属するユーザーでログオンする必要があります。

1 「コンピュータの管理」を起動します。

①［マイコンピュータ］を右クリックします。
③表示された［管理］をクリックします。
⇒［コンピュータの管理］が起動されます。

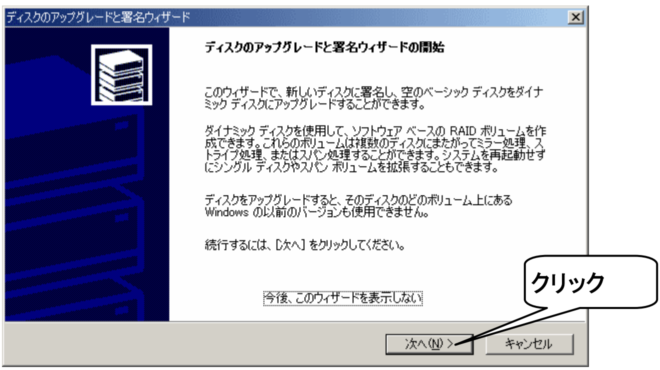
2 ［ディスクの管理］をクリックします。

［記憶域］→［ディスクの管理］をクリックします。
⇒「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が表示されます。

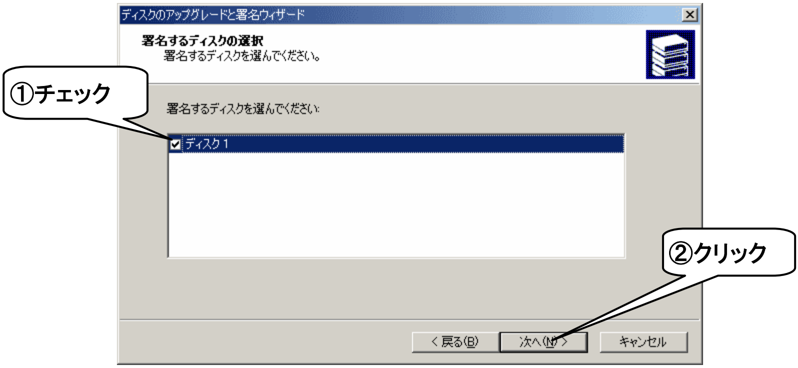
注意

「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が表示されない
・ハードディスクが正しく接続されていません。
・表示されない設定になっています。
ハードディスクのアイコンを右クリックし、表示された［署名］をクリックしてください。
・ハードディスクは初期化されています。
手順 *7* (36ページ) へお進みください。

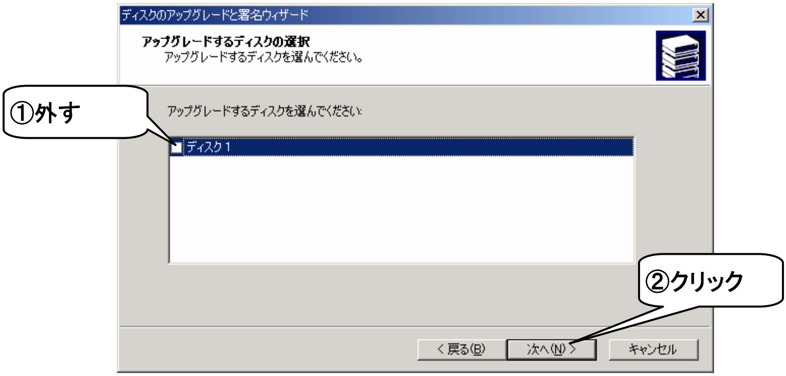
3 ［次へ］ボタンをクリックします。



4 チェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



5 チェックを外し、[次へ]ボタンをクリックします。



参考

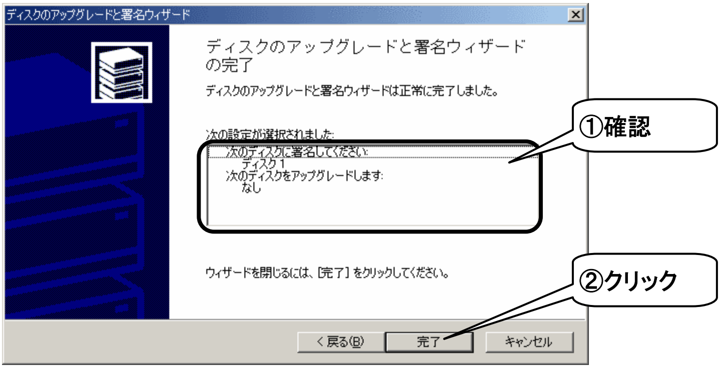
ここでチェックしてしまうと･･･

「ダイナミックディスク」となります。「ダイナミックディスク」は、Windows Me/98などで使えません。

詳細は、Windows 2000の取扱説明書、オンラインヘルプをご覧ください。

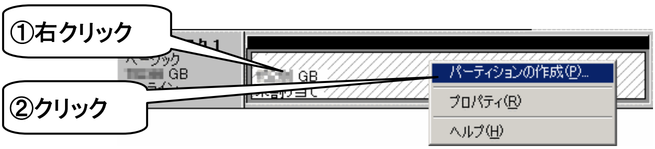
6 設定を確認して、[完了]ボタンをクリックします。

設定が正しいことを確認し、［完了］ボタンをクリックします。
⇒初期化が行われます。ディスクの初期化が完了しました。

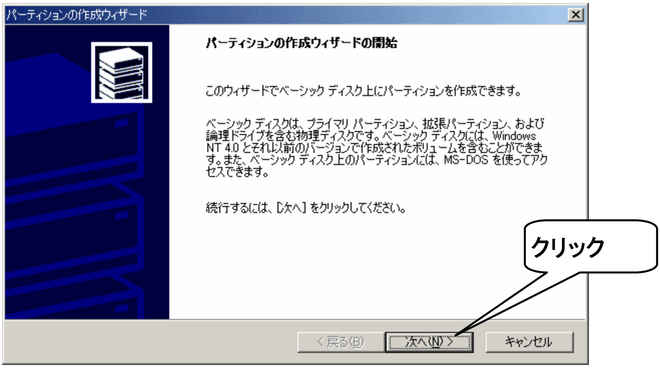


7 「新しいパーティションウィザード」を起動します。

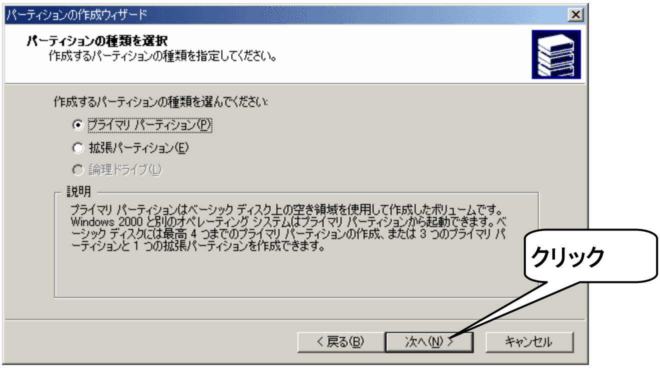
①フォーマットしたいハードディスクの未割り当ての領域を右クリックします。
②表示された［パーティションの作成］をクリックします。
⇒「パーティションの作成ウィザード」が起動します。



8 ［次へ］ボタンをクリックします。



9 ［次へ］ボタンをクリックします。

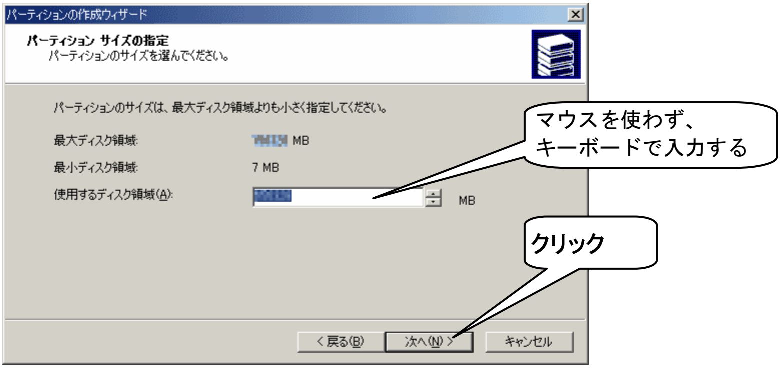


参考

拡張パーティションについて

ここでは、［拡張パーティション］を選ぶこともできます。
ハードディスクを５つ以上に分割したい場合は、「拡張パーティション」を作成する必要があります。
詳細は、Windows 2000の取扱説明書、オンラインヘルプをご覧ください。

10 [次へ]ボタンをクリックします。

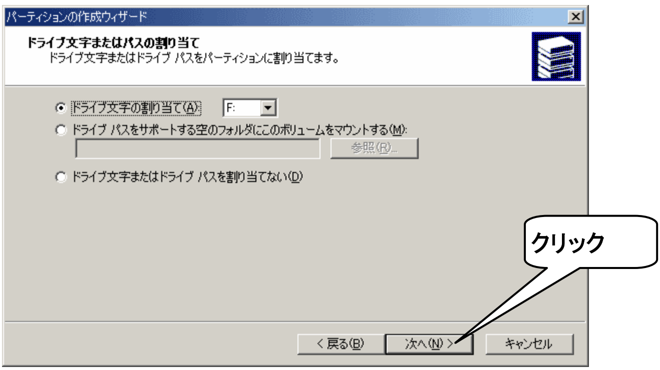


参考

パーティションサイズについて

ここでは、最大値のままの設定にされています。
ハードディスクを分割したい場合は、［パーティションサイズ］を［最大ディスク領域］より小さくする必要があります。
詳細は、Windows 2000の取扱説明書、オンラインヘルプをご覧ください。
※ サイズを変更するときは、マウスで変更せず、キーボードで値を入力してください。

11 [次へ]ボタンをクリックします。



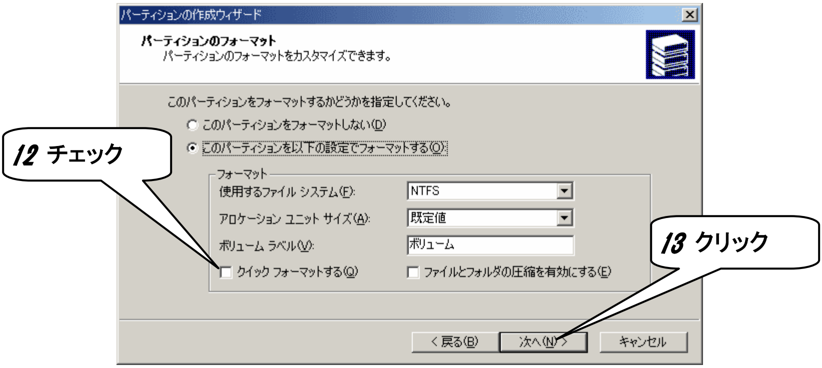
参考

ドライブ文字について

ここで割り当てたドライブ文字が、作成するドライブのドライブ文字になります。

12 [クイックフォーマットする]をチェックします。

13 [次へ]ボタンをクリックします。



参考

ファイルシステムについて

ハードディスクをWindows 2000のみで使う場合は、［NTFS］のままにしてください。

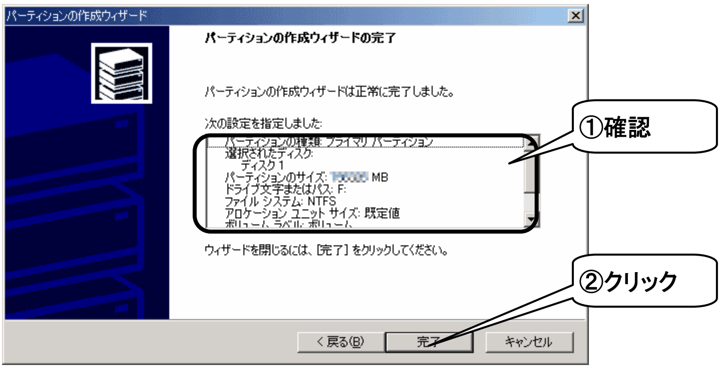
他のOSでも使う場合は、使うOSにも対応したファイルシステムをお使いください。

詳しくは、【ファイルシステムについて】(98ページ)をご覧ください。

14 設定を確認して、[完了]ボタンをクリックします。

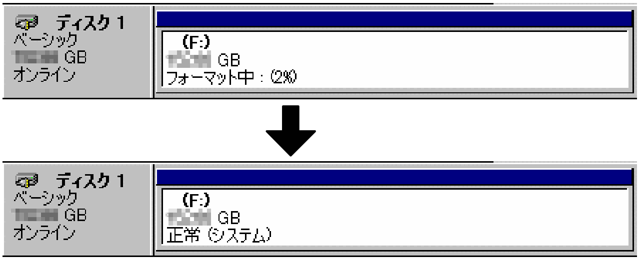
設定が正しいことを確認し、［完了］ボタンをクリックします。

⇒パーティションの作成とフォーマットが行われます。



15 フォーマットされます。

［フォーマット中］が［正常］になるまでお待ちください。



16 [コンピュータの管理]を閉じます。

☒ボタンをクリックします。

以上で本製品はフォーマットされました。
フォーマット後は、再起動せずにそのまま本製品を使えます。

Windows Me/98/95でのフォーマット

Windows Me/98/95で本製品をフォーマットするための説明をします。

注意

Windows 98をお使いの場合、FDISKのアップデートが必要です
詳しくは、6ページの※2をご覧ください。

参考

ここで記載しているフォーマット方法について
本製品を弊社製SC-UPCIシリーズに接続してお使いの場合に、拡張MS-DOS領域でフォーマットする方法です。

他のSCSIインターフェイスをお使いの場合
フォーマット方法については、そのSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧になるか、SCSIインターフェイスのメーカーにお問い合わせください。

基本MS-DOS領域を作りたい場合
Windows 98の場合、1パーティションを137Gバイト以下にしてください。
137Gバイトより大きいパーティションには、スキャンディスクを使えません。

1 パソコンを「Command Prompt Only」で起動します。

Windows Meの場合

Windows Meの起動ディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、
パソコンの電源を入れます。
メニューが表示されたら、「3」と入力して［Enter］キーを押します。

Windows 98/95の場合

［Ctrl］キーを押したまま、パソコンの電源を入れます。
メニューから［Command Prompt Only］を選択します。
※メニューが表示されない時は、パソコンが起動している途中で［Ctrl］キーを押したり、はなしたりしてください。

参考

Windows Meの起動ディスクを作るには
①［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を開きます。
②［アプリケーションの追加と削除］アイコンをダブルクリックします。
③［起動ディスク］タブをクリックします。
④フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入して、［ディスクの作成］ボタンをクリックします。
※Windows MeのCD-ROMを要求されることがあります。
⑤「このディスクのファイルは全て削除されます」という内容のメッセージが表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。
⑥進行状況の表示が消えたら、［OK］ボタンをクリックします。

自動で「Help」が表示されたら･･･
［Alt］→［F］→［X］キーの順に押し、「Help」を終了してください。

2 FDISKと入力し、[Enter]キーを押します。

3 下の画面が表示された場合は、[Y]を入力します。

下の参考をご覧になり、［Y］を入力して［Enter］キーを押します。

```
512 MB以上のディスクがあります. このバージョンのWindowsでは, 大容量のディスク
のサポートが強化され, ディスク領域を有効に使えるようになりました. 2 GB以上の
ドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます.


重要 : 大容量ディスクのサポートを使用可能にして, このディスクに新しいドライブ
を作成した場合, ほかのオペレーティング システムを使ってこの新しいドライブに
アクセスすることはできません (Windows 95とWindows NTの特定のバージョン,
以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む). また, FAT32ファイルシステム
用に設計されていないディスクユーティリティは, 正常に動作しません.
このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティ
にアクセスする必要がある場合, 大容量ドライブのサポートは使用しないでください.

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)..........? [Y]
```

4 「現在のハードディスクドライブを変更」を選択します。

「5」（現在のハードディスクドライブを変更）を入力し、［Enter］キーを押します。

> **[5]（現在のハードディスクドライブを変更）の表示がない**
> [Esc]キーでFDISKを終了し、【・FDISKで[5]の項目が表示されない】（91ページ）をご覧ください。

5 本製品を選択します。

使われていないハードディスクの「ディスク」の番号を入力し、［Enter］キーを押します。

40,80Gバイトの本製品

```
ﾃﾞｨｽｸ  Drv   Mﾊﾞｲﾄ    空き   使用
  1          29314           100%
        C:    4103
        D:   25211
  2          76317   76317      %
```

120,160,250,300Gバイトの本製品

```
ﾃﾞｨｽｸ  Drv   Mﾊﾞｲﾄ    空き    使用
  1          29314            100%
        C:    4103
        D:   25211
  2          23841   8 2384   18 %
```

ドライブの容量
＝空き容量

> **使っていないドライブがない場合**
> [Esc]キーでFDISKを終了し、【・FDISKで本製品が表示されない】（91ページ）をご覧ください。

参考

表示について

本製品の容量によっては、FDISK内の表示がずれたり、末尾が表示されない場合があります。
その場合でも問題なくお使いいただけます。

6 「MS-DOS領域または論理MS-DOS･･･」を選択します。

「1」（MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成）を入力し、［Enter］キーを押します。

7 「拡張MS-DOS領域を作成」を選択します。

「2」（拡張MS-DOS領域を作成）を入力し、［Enter］キーを押します。

8 下記のような画面が表示されたら、「100%」と入力し、[Enter]キーを押します。

［Back Space］キーで数字を削除してから、「100%」と入力し、［Enter］キーを押します。

```
ディスクの総容量は 11447 Mバイトです.(1 Mバイト=1048576 バイト)
領域に割り当て可能な最大領域は 11446 Mバイト(3100%) です.


領域のサイズを Mバイトか全体に対する割合で(%)入力してください.
拡張 MS-DOS 領域を作ります...................................: [ 100%]
```

注意

160Gバイト以上の本製品をお使いの場合

必ず［%］で入力してください。
サイズをそのまま入力する方法では、正しく入力できません。
（例：100パーセントを指定したい場合は、「100%」と入力します。）

参考

「領域のサイズ」について

本製品の容量を、拡張MS-DOS領域でどれだけ使うかという設定です。
本手順では、最大容量を割り当てています。
ここに最大容量を割り当てなかった場合、残りの容量は使えなくなります。

Windows 98でお使いの場合

基本領域で約137Gバイト以上のパーティションを作らないでください。
約137Gバイト以上のパーティションは、スキャンディスクを使えません。

表示について

本製品の容量によっては、FDISK内の表示がずれたり、末尾が表示されない場合があります。
その場合でも問題なくお使いいただけます。

9 下のような画面が表示されたら、[Esc]キーを押します。

```
領域       状態      種類    ﾎﾞﾘｭｰﾑﾗﾍﾞﾙ     Mﾊﾞｲﾄ    ｼｽﾃﾑ      使用
   1                EXT DOS                11446   3UNKNOWN    100
 %

拡張 MS-DOS 領域を作成しました.


続けるには Esc キーを押してください._
```

10 下記のような画面が表示されたら、「論理ドライブ」の容量を入力します。

［Back Space］キーで数字を削除してから、「100%」と入力し、［Enter］キーを押します。

※ Windows 98で137Gバイト以上の本製品をお使いの場合は、137G以上にならないように［%］で入力してください。
その場合、手順11の画面が表示される前に、残りの容量を「論理ドライブ」にする必要があります。

```
論理ドライブは定義されていません.


拡張 MS-DOS 領域は全部で 11446 Mバイトです.(1 Mバイト=1048576 バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域は 11446 Mバイトです.(3100%)

論理ﾄﾞﾗｲﾌﾞのｻｲｽﾞを Mﾊﾞｲﾄか全体に対する割合(%)で入力してください [ 100%]
```

「論理ドライブのサイズ」の入力方法について

必ず［%］で入力してください。
サイズをそのまま入力する方法では、正しく入力できません。
（例：100パーセントを指定したい場合は、「100%」と入力します。）

「論理ドライブのサイズ」について

拡張MS-DOS領域の中にどれだけの大きさのドライブ（パーティション）を作るかという設定です。
ここでは、最大を割り当てて本製品を１つのドライブとして使います。

表示について

本製品の容量によっては、FDISK内の表示がずれたり、末尾が表示されない場合があります。
その場合でも問題なくお使いいただけます。

11 [Esc]キーを押します。

下のように表示されますので、［Esc］キーを押します。

```
拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて
論理ドライブに割り当てられています.
続けるには Esc キーを押してください._
```

12 FDISKを終了します。

さらに、［Esc］キーを２回押します。

13 Windows Meの場合は、起動ディスクを取り出します。

14 パソコンを再起動します。

［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーを同時に押し、パソコンを再起動します。

15 論理ドライブのアイコンを確認します。

［マイコンピュータ］を開きます。表示されたドライブアイコンの中から論理ドライブのアイコンを確認します。

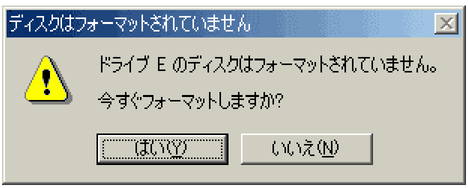
参考

本製品のアイコンの確認方法

ハードディスクのアイコンをダブルクリックしてください。
それによって、下記のように表示されたら、本製品のアイコンです。

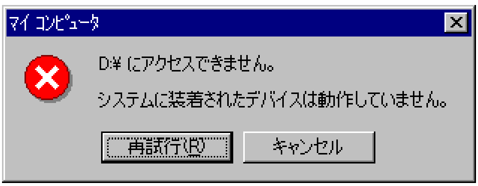
Windows Meの場合

［はい］ボタンをクリックして、その後手順17にお進みください。



Windows 98の場合

［キャンセル］ボタンをクリックして、エラー画面を閉じてください。



参考

他のハードディスクのドライブ文字
他のハードディスクのドライブ文字が元の環境のままであることをご確認ください。

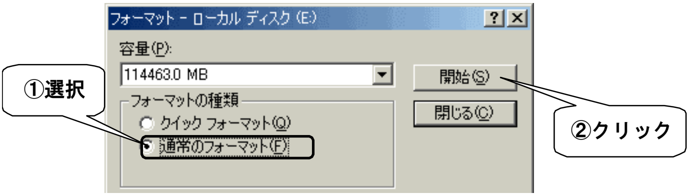
ドライブ文字
アイコンの名前のあとに表示される、（）に囲まれたアルファベット。
Windowsに認識されたドライブ全てに表示される。

16 表示された[フォーマット]をクリックします。

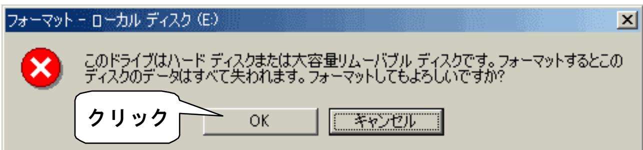
本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

17 [通常のフォーマット]でフォーマットします。

［通常のフォーマット］を選び、［開始］ボタンをクリックします。



18 [OK]ボタンをクリックします。



19 フォーマットが終わったら、スキャンディスクをします。

フォーマットが終わると、画面上に結果とヘルプが表示されます。
ヘルプの指示にしたがって、スキャンディスクを実行してください。

20 パソコンを再起動します。

スキャンディスクが終わったら、パソコンを再起動します。

以上でフォーマットは終了です。本製品をお使いください。

Windows NT 4.0でのフォーマット

Windows NT 4.0で本製品をフォーマットするための説明をします。

参考

Administrator権限でログオンしてください
Windows NT 4.0でハードディスクをフォーマットする場合は、Administrator権限でログオンする必要があります。

注意

本製品をWindows Me/98/95やMS-DOSと併用する場合
併用するOSでフォーマットしてください。

1 「管理ツール」を起動します。

［スタート］→［プログラム］→［管理ツール］の順にクリックします。

2 「ディスクアドミニストレータ」を起動します。

［管理ツール］→［ディスクアドミニストレータ］を選択します。

注意

「･･･に署名がありません」と表示された
［はい］ボタンをクリックします。

3 パーティションを作成します。

①本製品の空き領域をクリックします。

②［パーティション］→［作成］を選択し、作成するパーティションサイズを設定します。

4 変更結果を反映します。

作成したパーティションは、［未フォーマット(未反映)］と表示されます。

［パーティション］→［今すぐ変更を反映］を選択し、変更結果を保存してください。

⇒［未フォーマット(未反映)］から［不明］に変わります。

5 本製品をフォーマットします。

①［不明］のパーティションを選択し、［ツール］→［フォーマット］を選択します。

②［ファイルシステム］と［ラベル］を設定し、［OK］ボタンをクリックします。

③確認画面が表示されます。［OK］ボタンをクリックします。

以上でフォーマットは終了です。本製品をお使いください。

Mac OSでのフォーマット

Mac OSで本製品をフォーマットするための説明をします。

Mac OS Xより前のOSでフォーマットする

SCSIハードディスクに対応したフォーマッタソフトが必要です。
別途、ご用意ください。
また、それを使ったフォーマットの方法については、フォーマッタソフトの取扱説明書をご覧ください。

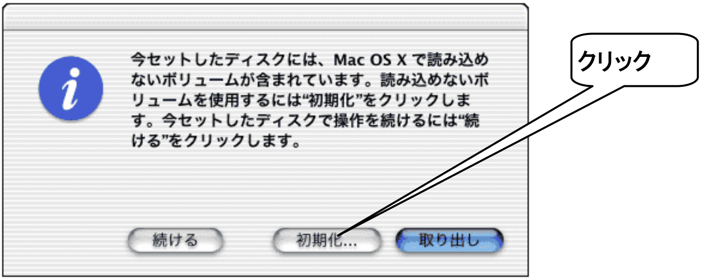
推奨フォーマッタソフト
ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew for Macintosh」を推奨します。
※ ただし、標準SCSIポート（D-sub25ピンもしくはHDI-30ピン）に接続して本製品をお使いの場合は、B'sCrew 2.1.6以降もしくは3.1.2以降を推奨。

ブラインド転送機能について
お使いのフォーマッタソフトの「ブラインド転送」に関する機能は切ってください。
設定方法については、フォーマッタソフトの取扱説明書をご覧ください。

Mac OS Xでフォーマットする

1 **画面が表示されたら、[初期化]ボタンをクリックします。**

⇒［Disk Utility］が起動します。



上の画面が表示されない場合

① 起動ボリュームのアイコンをダブルクリックします。
②［アプリケーション］ボタンをクリックします。
⇒「アプリケーション(Applications)」が開きます。
③［ユーティリティ(Utilities)］フォルダを開きます。
④［ディスクユーティリティ(Disk Utility)］アイコンをダブルクリックします。

2 **[Drive Setup]ボタンがある場合は、クリックします。**

3 **本製品を選択します。**

本製品を見分ける方法については、下の参考をご覧ください。

本製品を見分ける方法

本製品を選択したとき、［情報］タブに下記のように表示されます。

ディスクの説明：I-O DATA HDXG･･･
接続バス：SCSI

4 **[パーティション]タブをクリックします。**

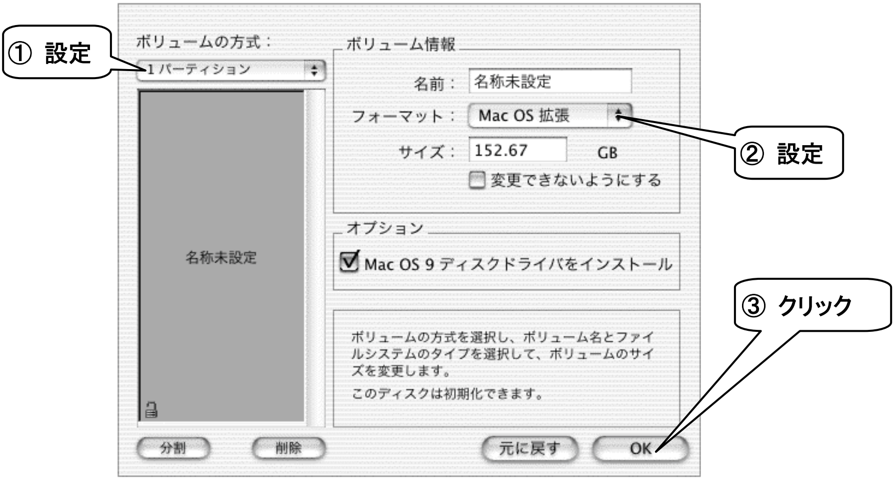
5 本製品を初期化します。

① ［ボリューム（パーティション）の方式］を［1パーティション］に設定します。

② ［フォーマット］を［Mac OS拡張］に設定します。

③ ［パーティション（OK）］ボタンをクリックします。

Mac OS X 10.1.2の場合



注意

［UNIXファイルシステム］には設定しないでください

UNIXファイルシステムには対応しておりません。

参考

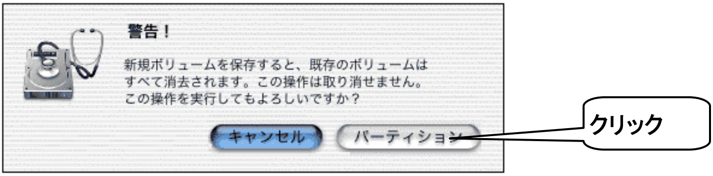
パーティションを分けたい場合は

［ボリューム（パーティション）の方式］で、パーティション数を設定します。あとは、［分割］［削除］ボタンや［サイズ］を変更して、調整します。

※パーティションを複数作ると、［情報］タブの表示がおかしくなる場合がありますが、動作に問題はありません。

6 [パーティション]ボタンをクリックします。

⇒初期化が始まります。



7 本製品のアイコンを確認します。

デスクトップに本製品のアイコンがあることを確認します。



以上で本製品を初期化できました。

Memo

基本操作について

基本操作について

本製品の基本操作について説明します。

本製品の電源を入れる

本製品を含むすべてSCSI機器の電源は、パソコンの電源を入れる前に入れてください。パソコンの電源を入れた後で、SCSI機器の電源を入れてもSCSI機器が認識されない場合があります。

電源を入れる手順について

ここで説明している方法は、一般的なSCSIインターフェイスのものです。SCSI PCカードなど起動方法が異なるものもあります。詳しくはSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

本製品の電源を切る

本製品を含むすべてSCSI機器の電源は、パソコンの電源を切った後に切ってください。パソコンの電源を切る前に、SCSI機器の電源を切るとSCSI機器の故障の原因となる場合があります。

電源を切る手順について

ここで説明している方法は、一般的なSCSIインターフェイスのものです。SCSI PCカードなど起動方法が異なるものもあります。詳しくはSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

モードを切り替える

モードの切り替えは、パソコンの電源を切った後に行ってください。
パソコンの電源を切る前に、モードを切り替えると本製品の故障の原因となる場合があります。

モードの切り替え

モードの切り替えについては、【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

Super Multi Drive設定ユーティリティ

動作環境

ここでは、Super Multi Drive設定ユーティリティが対応している機種・OSについて説明しています。

対応機種※1	対応OS
NEC PC98-NXシリーズ DOS/Vマシン	Windows Me/98/95,Windows XP※2, Windows 2000※2,Windows NT 4.0※2
Apple Macintosh	Mac OS 7.6 ～ 9.2.1

※1 本ドライブ以外から対応OSを起動する必要があります。
※2 お使いのSCSIインターフェイスに付属しているASPIマネージャが組み込まれている必要があります。
ASPIマネージャおよびその組み込みについては各SCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照ください。

推奨SCSIインターフェイス

弊社製　SC-UPCIシリーズ（ASPI接続ビューアをインストール）

Windowsの場合

ここでは、Windows版「Super Multi Drive設定ユーティリティ」を使用する方法について説明しています。

●マルチドライブ分割比率変更機能(本ページ)

●ドライブロック機能(60ページ)

マルチドライブ分割比率変更機能

プログラムモードに切り替える

1 パーティションがある場合は、すべて削除します。

モードを変更する前に、FDISKなどで本製品内すべてのパーティションを削除します。

> **ご購入後に本製品を一度も使用したことがない場合**
> パーティションはありませんので、削除する必要はありません。
> そのまま次へお進みください。

2 プログラムモードに切り替えます。

【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

> **切り替え時の注意**
> ・内蔵ターミネータのON/OFFにご注意ください。

ユーティリティで比率を変更する

3 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

4 「不明なデバイス」として認識される場合があります。

その場合は、［キャンセル］ボタンをクリックします。

5 添付のCD-ROMを挿入します。

6 「WSMDUTL」を起動します。

［マイコンピュータ］→［HDXG_xxx］→［SMDUTL］→［WSMDUTL］を順にダブルクリックします。

7 分割比率を変更したい本製品を選択します。

本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

8 ［マルチドライブ分割比率変更］を選択します。

9 ［次へ］ボタンをクリックします。

10 「表示」にて表示方法を選択します。

容量を表示する単位、もしくは割合を選択します。

11 ［スライダーバー］、または「変更後」にて設定します。

スライダーバーを移動、もしくは「変更後」に記入することで容量を設定します。

12 ［次へ］ボタンをクリックします。

13 内容を確認します。

「変更前」と「変更後」の数値を確認し、良いなら［次へ］ボタンをクリックします。

14 ［完了］ボタンをクリックします。

15 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

本製品をフォーマットする

16 本製品のモードを変更します。

【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

切り替え時の注意
・内蔵ターミネータのON/OFFにご注意ください。

17 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

18 本製品を「物理フォーマット」などします。

SCSIインターフェイスやソフトウェアにより、物理フォーマット、もしくはデータ管理情報の消去を行います。
詳細は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

データ管理情報の消去について
本製品は物理フォーマットに時間がかかります。
データ管理情報の消去を行うことができれば、物理フォーマットを行うよりも短い時間で作業を終わらせることができます。

19 本製品をフォーマットします。

【フォーマットしよう】(25ページ)をご覧ください。

ドライブロック機能

本機能はロックされていない本製品の場合と、ロックされている本製品の場合で、できることが変化します。
ご使用の本製品に合わせて、お読みください。

ロックされていない本製品の場合

本製品をロックします。

プログラムモードに切り替える

1 プログラムモードに切り替えます。

【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

> **切り替え時の注意**
> ・内蔵ターミネータのON/OFFにご注意ください。
> ・モードスイッチの元の設定をメモしておいてください。

ユーティリティでロックする

2 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

3 「不明なデバイス」として認識される場合があります。

その場合は、［キャンセル］ボタンをクリックします。

4 添付のCD-ROMを挿入します。

5 「WSMDUTL」を起動します。

［マイコンピュータ］→［HDXG_xxx］→［SMDUTL］→［WSMDUTL］を順にダブルクリックします。

6 ロックしたい本製品を選択します。

本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

7 [ドライブロック]を選択します。

8 [次へ]ボタンをクリックします。

9 パスワードを設定します。

同じパスワードを「パスワード」と「パスワードの確認入力」に入力します。

10 [次へ]ボタンをクリックします。

この時点で本製品はロックされます

パスワードを設定し、[次へ]ボタンをクリックした時点で、本製品はロックされます。

起動ドライブに対して、ドライブロック機能を使用すると起動できなくなりますので、誤って設定しないようご注意ください。

パスワードについて

パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。

また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。

パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。

その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

※ここで設定したパスワードは、他のユーティリティでも共通です。

11 [完了]ボタンをクリックします。

12 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

これで本製品はロックされました。

解除するまで、ハードディスクとしてアクセスできません。

ロックされている本製品の場合

本製品のロックを解除したり、パスワードを変更したりします。

ユーティリティで解除・変更する

1 **本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。**

2 **「不明なデバイス」として認識される場合があります。**

その場合は、［キャンセル］ボタンをクリックします。

3 **添付のCD-ROMを挿入します。**

4 **「WSMDUTL」を起動します。**

［マイコンピュータ］→［HDXG_xxx］→［SMDUTL］→［WSMDUTL］を順にダブルクリックします。

5 **作業したい本製品を選択します。**

本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

6 **[ドライブロック]を選択します。**

7 **[次へ]ボタンをクリックします。**

8 **今から何をするかを選択します。**

行いたい作業のタブをクリックします。
ここからは、行う作業によって分かれます。

● **[ドライブロックの解除]タブの場合**

9 **ロックするときに設定したパスワードを入力します。**

> **パスワードについて**
> パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
> また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
> パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
> その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

10 [次へ]ボタンをクリックします。

11 [完了]ボタンをクリックします。

12 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

13 本製品のモードを元に戻します。

【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

元の設定はメモしてありますか？
ロックするときにメモした設定にお戻しください。

これで本製品のロックは解除されました。
再びハードディスクとしての使用が可能となります。

● [パスワードの変更]タブの場合

9 パスワードを設定します。

「古いパスワード」にロックするときに設定したパスワード、「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認」に新しく設定したいパスワードを入力します。

パスワードについて
パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。
※ここで設定したパスワードは、他のユーティリティでも共通です。

10 [次へ]ボタンをクリックします。

11 [完了]ボタンをクリックします。

12 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

これでパスワードは変更されました。

Mac OSの場合

ここでは、Mac OS版「Super Multi Drive設定ユーティリティ」を使用する方法について説明しています。

●マルチドライブ分割比率変更機能(本ページ)

●ドライブロック機能(67ページ)

マルチドライブ分割比率変更機能

プログラムモードに切り替える

1 パーティションがある場合は、すべて削除します。

モードを変更する前に、フォーマッタソフトなどで本製品内すべてのパーティションを削除します。

> **ご購入後に本製品を一度も使用したことがない場合**
> パーティションはありませんので、削除する必要はありません。
> そのまま次へお進みください。

2 プログラムモードに切り替えます。

【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

> **切り替え時の注意**
> ・内蔵ターミネータのON/OFFにご注意ください。

ユーティリティで比率を変更する

3 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

4 添付のCD-ROMを挿入します。

5 「SMD Utility」を起動します。

「HDXG_xxx」CD-ROM内の［SMD Utility］をダブルクリックします。

6 ［対象ドライブ］で、本製品を選択します。

本製品を複数お使いの場合は、分割比率を変更したい本製品を選択します。

7 ［マルチドライブ分割比率変更］を選択します。

8 ［次へ］ボタンをクリックします。

9 「表示」にて表示方法を選択します。

容量を表示する単位、もしくは割合を選択します。

10 ［デフォルト(50%:50%)に設定］のチェックを外します。

これを外すと、設定できるようになります。
元に戻したい場合は、チェックを付けてください。

11 「変更後」にて容量を設定します。

もしくは「変更後」に入力することで容量を設定します。

12 ［次へ］ボタンをクリックします。

13 内容を確認します。

「変更前」と「変更後」の数値を確認し、良いなら［実行］ボタンをクリックします。

14 ［OK］ボタンをクリックします。

15 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

本製品をフォーマットする

16 本製品のモードを変更します。

【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

切り替え時の注意
・内蔵ターミネータのON/OFFにご注意ください。

17 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

18 本製品をフォーマット・イニシャライズします。

【フォーマットしよう】(25ページ)をご覧ください。

ドライブロック機能

本機能はロックされていない本製品の場合と、ロックされている本製品の場合で、できることが変化します。
ご使用の本製品に合わせて、お読みください。

ロックされていない本製品の場合

本製品をロックします。

プログラムモードに切り替える

1 プログラムモードに切り替えます。

【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

> **切り替え時の注意**
> ・内蔵ターミネータのON/OFFにご注意ください。
> ・モードスイッチの元の設定をメモしておいてください。

ユーティリティでロックする

2 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

3 添付のCD-ROMを挿入します。

4 「SMD Utility」を起動します。

「HDXG_xxx」CD-ROM内の[SMD Utility]をダブルクリックします。

5 [対象ドライブ]で、本製品を選択します。

本製品を複数お使いの場合は、ロックしたい本製品を選択します。

6 [ドライブロック]を選択します。

7 [次へ]ボタンをクリックします。

8 パスワードを設定します。

同じパスワードを「パスワード」と「パスワードの確認入力」に入力します。

9 [ロック]ボタンをクリックします。

この時点で本製品はロックされます

パスワードを設定し、[次へ]ボタンをクリックした時点で、本製品はロックされます。
起動ドライブに対して、ドライブロック機能を使用すると起動できなくなりますので、誤って設定しないようご注意ください。

パスワードについて

パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。
※このパスワードは、本製品の他のユーティリティでも共通です。

10 [OK]ボタンをクリックします。

11 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

これで本製品はロックされました。
解除するまで、ハードディスクとしてアクセスできません。

ロックされている本製品の場合

本製品のロックを解除します。

ユーティリティで解除する

1 **本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。**

2 **添付のCD-ROMを挿入します。**

3 **「SMD Utility」を起動します。**

「HDXG_xxx」CD-ROM内の［SMD Utility］をダブルクリックします。

4 **［対象ドライブ］で、本製品を選択します。**

本製品を複数お使いの場合は、ロック解除したい本製品を選択します。

5 **［ドライブロック解除］を選択します。**

6 **［次へ］ボタンをクリックします。**

7 **ロックするときに設定したパスワードを入力します。**

> **パスワードについて**
> パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
> また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
> パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
> その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

8 **［OK］ボタンをクリックします。**

9 **［OK］ボタンをクリックします。**

10 **パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。**

11 本製品のモードを元に戻します。

【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

元の設定はメモしてありますか？ ロックするときにメモした設定にお戻しください。

これで本製品のロックは解除されました。

再びハードディスクとしての使用が可能となります。

HDXGシリーズ用診断･設定ユーティリティ

動作環境

ここでは、HDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティが対応している機種・OSについて説明しています。

対応機種	対応OS
NEC PC98-NXシリーズ DOS/Vマシン	Windows Me/98/95，Windows XP※， Windows 2000※，Windows NT 4.0※

※ お使いのSCSIインターフェイスに付属しているASPIマネージャが組み込まれている必要があります。
ASPIマネージャおよびその組み込みについては各SCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照ください。

推奨SCSIインターフェイス

弊社製　　SC-UPCIシリーズ（ASPI接続ビューアをインストール）

インストール・起動しよう

HDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティを使えるようにするための手順について説明します。

インストール

1 **「HDXGシリーズサポートソフト」を挿入します。**

2 **インストールします。**

［マイコンピュータ］→［HDXG_xxx］→［SETUP］の順にダブルクリックします。

⇒インストーラーが起動します。

あとは、画面の指示に従ってください。

起動

HDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティを起動する方法は、２通りあります。

● [スタート]ボタンから起動する

［スタート］→［プログラム］→［HDXGシリーズサポートソフト］→［HDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティ］の順にクリックします。

⇒HDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティが起動されます。

● 本製品のアイコンから起動する

①［マイコンピュータ］を開きます。

②本製品のアイコンを右クリックします。

③表示されたメニューの［プロパティ］をクリックします。

⇒プロパティ内にHDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティ用のタブが表示されます。

参考

本製品がフォーマットされている必要があります

本製品のアイコンから起動する場合は、本製品がフォーマットされている必要があります。

注意

ドライブがロックされている場合は、[スタート]ボタンから起動してください

本製品のアイコンからは起動できません。

自己診断機能を使う

自己診断機能とは、本製品の自己診断を実施し、不具合がないか調査する機能です。

1 ［自己診断］タブをクリックします。

本製品のアイコンから起動した場合

本製品のアイコンからHDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティを起動した場合は、［自己診断］の［実施］ボタンを先にクリックしてから、手順*3*へお進みください。

2 診断する本製品を選びます。

［ドライブ］にHDXGシリーズが表示されています。

クリックし、診断するドライブを選んでください。

3 診断方法を選びます。

ベリファイチェックについて

スキャン（チェック）ディスクの［完全］とほぼ同じ診断を「より高速に」行います。

4 ［診断開始］ボタンをクリックします。

⇒診断が始まります。

5 診断結果が表示されます。

診断が終わると、結果を示す画面が表示され、［ドライブの自己診断］の枠内に診断結果を示すマーク（○，×，！）が表示されます。

診断結果が×だった場合

故障の可能性があります。

内容のバックアップを取った上で、弊社修理係までお送りください。

診断結果が！だった場合

データが壊れています。

データ修復のため、スキャン（チェック）ディスクを［完全］で行ってください。

省電力機能を使う

省電力機能とは、本製品独自の省電力を行うための機能です。

本製品のアイコンから起動した場合
本製品のアイコンからHDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティを起動した場合は、［省電力］の［設定］ボタンを先にクリックしてから、手順***3***へお進みください。

1 ［省電力］タブをクリックします。

2 設定する本製品を選びます。

［ドライブ］にHDXGシリーズが表示されています。
クリックし、設定するドライブを選んでください。

3 ハードディスクの省電力設定を選びます。

その状態になるまでの時間を設定します。
［設定しない］を選択した場合、その状態になることはありません。

省電力状態について
アイドリング状態：通常状態よりも消費電力を押さえる状態
スタンバイ状態　：アイドリング状態よりも消費電力を押さえる状態

4 ［OK］ボタンをクリックします。

5 ［はい］ボタンをクリックします。

⇒パソコンが再起動されます。
（パソコンによっては、手動で再起動してください）
再起動されてくると、省電力の設定が有効になっています。

ドライブロック機能を使う

ドライブロック機能とは、パスワードを設定して本製品を使えないようにする機能です。

注意

本製品を起動ドライブとして使っている場合
ドライブロックすると、パソコンが起動しなくなります。
誤って設定しないようご注意ください。

本製品のアイコンから起動した場合
本製品のアイコンからHDXGシリーズ用診断・設定ユーティリティを起動した場合は、［パスワード］の［設定］ボタンを先にクリックしてから、手順**3**へお進みください。

1 [パスワード]タブをクリックします。

2 ロックする本製品を選びます。

［ドライブ］にHDXGシリーズが表示されています。
クリックし、ロック／ロック解除するドライブを選んでください。

3 [ドライブをロックする]をチェックします。

ロック解除する場合は、［ロックを解除する］をチェックします。

4 パスワードを設定します。

ロックする場合　［パスワード］と［パスワードの確認入力］に同じパスワードを入力します。

ロック解除する場合　［パスワード］にロックしたときのパスワードを入力します。

参考

パスワードについて
パスワードは、半角英数字にて16文字以内で入力してください。
※このパスワードは、本製品の他のユーティリティでも共通です。

5 [このパスワードでロック]ボタンをクリックします。

ロック解除する場合は、［ロックを解除する］ボタンをクリックします。

6 ［はい］ボタンをクリックします。

⇒パソコンが再起動されます。

（パソコンによっては、手動で再起動してください）

再起動されてくると、本製品はロック／解除されています。

参考

パスワードは大事に保管してください

パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をおすすめします。
その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

Memo

easy Boot Menu

起動しよう

ここでは、easy Boot Menuを起動する方法について説明しています。

参考

動作環境
本製品が弊社製SC-UPCIシリーズに接続されていること。

easy Boot Menu
弊社製SC-UPCIシリーズによって起動されるメニューです。
本製品の各機能を、OSを起動せずに使えます。

1 パソコンを起動します。

2 [Ctrl]キーと[U]キーを押します。

SC-UPCIシリーズのデバイススキャン時に、［Ctrl］＋［U］キーを押します。

⇒easy Boot Menuが起動されます。

参考

デバイススキャン
接続しているSCSI機器の名前が表示される状態

3 設定する本製品を選びます。

［↑］［↓］キーで本製品を選び、［Enter］キーを押します。

自己診断機能を使う

自己診断機能とは、本製品の自己診断を実施し、不具合がないか調査する機能です。

設定内容	作業方法
本製品を診断する	【診断する】(本ページ)
パソコン起動時の診断について設定する	【起動時の診断設定】(82ページ)

診断する

1 [Tab]ボタンを押します。

⇒ページが切り替わります。

2 診断をします。

[Diagnosis]、[Detailed Diagnosis]、[Verify Check]を選び、[スペース]キーを押すと診断されます。

⇒診断が終わると、診断結果が表示されます。

参考

[Verify Check]について

スキャン(チェック)ディスクの[完全]とほぼ同じ診断を「より高速に」行います。

注意

診断結果が[NG]だった場合

故障の可能性があります。

内容のバックアップを取った上で、弊社修理係までお送りください。

診断結果が[Warning]だった場合

データが壊れています。

データ修復のため、スキャン(チェック)ディスクを[完全]で行ってください。

3 [Esc]キーを2度押します。

⇒easy Boot Menuを終了します。

起動時の診断設定

1 [Tab]ボタンを押します。

⇒ページが切り替わります。

2 起動時の診断について設定します。

[Diagnosis on Boot] を、[スペース] キーで設定します。

[Disable] に設定した場合、パソコン起動時に自動的に診断されなくなります。

3 [Esc]キーを2度押します。

⇒easy Boot Menuを終了します。

参考

起動時の診断について

パソコンを起動するときに、自動的に診断されます。

本製品を診断して、問題がなかったときは特に何も表示されません。

問題が発見された場合、問題があった機器が表示されます。

注意

診断結果が[NG!]だった場合

故障の可能性があります。

内容のバックアップを取った上で、弊社修理係までお送りください。

診断結果が[Warning]だった場合

データが壊れています。

データ修復のため、スキャン（チェック）ディスクを［完全］で行ってください。

省電力機能を使う

省電力機能とは、本製品独自の省電力を行うための機能です。

1 省電力状態までの時間を設定します。

［Idle Timer］と［Standby Timer］を、［スペース］キーで設定します。

［--:--:--］に設定した場合、その状態になることはありません。

参考

省電力状態について

Idle　　：通常状態よりも消費電力を押さえる状態

Standby：Idleよりも消費電力を押さえる状態

2 設定が終わったら、[Enter]キーを押します。

3 確認が出るので、[Y]キーを押します。

⇒設定が保存されます。

4 [Esc]キーを押します。

⇒easy Boot Menuを終了します。

5 パソコンを再起動します。

再起動を要求されますので、パソコンを再起動してください。

ドライブロック機能を使う

ドライブロック機能とは、パスワードを設定して本製品を使えないようにする機能です。

> **本製品を起動ドライブとして使っている場合**
> ドライブロックすると、パソコンが起動しなくなります。
> 誤って設定しないようご注意ください。

1 [Drive Lock/Unlock]を選びます。

［Drive Lock/Unlock］を選び、［スペース］キーを押します。
⇒パスワード入力の画面が表示されます。

2 パスワードを入力します。

ロックする場合

① ［Password］にパスワードを入力し、［Enter］キーを押します。
② ［Verify］に同じパスワードを入力し、［Enter］キーを押します。

ロック解除する場合

［Password］にパスワードを入力し、［Enter］キーを押します。

> **パスワードについて**
> パスワードは、半角英数字にて16文字以内で入力してください。
> ※ここで設定したパスワードは、他のユーティリティでも共通です。

3 確認が出るので、[Y]キーを押します。

⇒設定が保存されます。

4 [Esc]キーを押します。

⇒easy Boot Menuを終了します。

5 パソコンを再起動します。

再起動を要求されますので、パソコンを再起動してください。

> **パスワードは大事に保管してください**
> パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
> また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
> パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をおすすめします。
> その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

マルチドライブ分割比率変更機能を使う

マルチドライブ分割比率変更機能とは、マルチドライブモードの分割されている比率を変更する機能です。

> 参考
> **プログラムモードにしてください**
> この機能を使うときは、プログラムモードにする必要があります。
> 作業が終わったら、元の設定に戻してください。

1 [Tab]ボタンを押します。

⇒ページが切り替わります。

2 [Change of Dividing Drive Capacity]を選びます。

［Change of Dividing Drive Capacity］を選び、［スペース］キーを押します。

⇒分割比率変更の画面が表示されます。

3 容量・比率を設定します。

容量と比率から変更することができます。

それぞれの数値の「けた」を選んで設定します。

［スペース］キー	：	「けた」の数値が増加する
［BackSpace］キー	：	「けた」の数値が減少する
数字キー	：	「けた」の数値がその数字になる

設定が終わったら、［Enter］キーを押します。

⇒設定は記録されました。前の画面に戻ります。

> 参考
> **容量・比率について**
> 多少の誤差が出ますが、実際には正しく分割されます。

4 さらに[Enter]キーを押します。

5 確認が出るので、[Y]キーを押します。

⇒設定が保存されます。

6 [Esc]キーを押します。

⇒easy Boot Menuを終了します。

7 パソコンを再起動します。

再起動を要求されますので、パソコンを再起動してください。

Memo

付録

困った時には

本製品を使っていて、異常があったときにご覧ください。

起動時のトラブル

フォーマット時のトラブル

使用中のトラブル

起動時のトラブル

デバイススキャンに本製品が表示されない

原因１　SCSI機器が正しく取り付けられていない

パソコンと全ての周辺機器の電源を切り、本製品を含む全てのSCSI機器の接続を確認してください。
また、モードスイッチの内蔵ターミネータについてもご確認ください。

原因２　SCSI機器に電源が入っていない

パソコンと全ての周辺機器の電源を切り、本製品を含む全てのSCSI機器の電源を入れてください。

原因３　SCSI-IDが重複している

パソコンと全ての周辺機器の電源を切り、本製品と他のSCSI機器にSCSI-IDの重複がないように設定し直してください。

原因４　SCSIインターフェイスが本製品のSCSI-IDを認識しない設定になっている

SCSIインターフェイスが、本製品のSCSI-IDを認識しないように設定されている可能性があります。詳細は、お使いのSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

原因５　モード切替スイッチが1,2,9,10に設定されている

モード切替スイッチを、使用するモードに設定してください。

原因６　SCSIバスの状態が不安定である

接続機器の接続順序や、接続ケーブルを変更してみてください。
また、接続ケーブルが長すぎないか確認してください。
（SCSIインターフェイスの取扱説明書参照）

パソコンが起動しない

原因　**デバイススキャンに本製品が表示されない**

【デバイススキャンに本製品が表示されない】(89ページ)をご覧ください。

Windowsで本製品が「その他のデバイス」として認識される

原因　**モードをプログラムモードにしている**

プログラムモードにしている必要がない場合は、モードを切り替えてください。

フォーマット時のトラブル

・FDISKで[5]の項目が表示されない
・FDISKで本製品が表示されない

原因1　SCSI PCカードやBIOSの無いSCSIボードに接続して使用している

FDISKでは初期化・領域確保はできません。
各SCSIインターフェイスの取扱説明書を参照し、作業を行ってください。

原因2　起動ディスクから起動していない

【フォーマットしよう】(25ページ)をご覧ください。

原因3　SCSIインターフェイスのBIOSを使用しない設定になっている

SCSIインターフェイスのBIOSを使用する設定にした後、もう一度FDISKを起動してください。詳しくは、SCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

原因4　デバイススキャンに本製品が表示されない

【デバイススキャンに本製品が表示されない】(89ページ)をご覧ください。

FDISKで、実際の容量よりも確保できる容量が少ない

原因　SCSIインターフェイスが誤認識、もしくは対応していない

SCSIインターフェイスの対応や誤認識については、SCSIインターフェイスのメーカーにお問い合わせください。

FDISKで、2047Mバイト以上の領域を確保できない

原因 **大容量ディスクのサポートを使用可能にしていない**

ファイルシステムの仕様により、2047Mバイト以上の領域は確保できません。

全容量を使えない

原因 **SCSIインターフェイスが本製品の容量に対応していない**

お使いのSCSIインターフェイスのメーカーにご確認ください。

Mac OSでのフォーマット時にパソコンが動かなくなる

原因 **フォーマットのオプション設定が正しくない**

フォーマットの設定で「全体を0で埋める」等の項目があった場合は、使わないように設定してください。

Mac OSでのイニシャライズ時にパソコンが動かなくなる

原因 **一部のMacintoshおよびPerformaの仕様である**

フォーマッタソフトの「ブラインド転送」に関する設定を使わないようにしてください。

ディスクの管理でフォーマット時に、パーティションのサイズをマウスで設定できない

原因 **容量によっては、マウスで設定できない**

キーボードによる入力で設定してください。

使用中のトラブル

本製品のアイコンが表示されない

原因１　「更新」されていない(Windowsのみ)

［マイコンピュータ］の［表示］→［最新の情報に更新］をクリックしてください。

原因２　正しく領域確保・フォーマットされていない

【フォーマットしよう】(25ページ)をご覧ください。

原因３　SCSIインターフェイスが正常に認識されていない

SCSIインターフェイスが正常に認識されているかを、SCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧になってご確認ください。

原因４　デバイススキャンに本製品が表示されない

【デバイススキャンに本製品が表示されない】(89ページ)をご覧ください。

原因５　ダイナミックディスクにした本製品を他のパソコン／OSに接続した

【ダイナミックディスクの認識方法】(95ページ)をご覧ください。

Mac OSで、データがコピー元の倍以上の容量になる

原因 **コピー元とコピー先でパーティションタイプが違う**

コピー先を「HFS+」形式にすると、ファイルの管理が効率化されます。

エラーが表示され、スキャンディスクをかけられない

原因 **Windows 98で、137Gバイト以上のパーティションにスキャンディスクをかけている**

Windows 98では、137Gバイト以上のパーティションにスキャンディスクをかけることができません。【Windows Me/98/95でのフォーマット】(41ページ)の作業内で、パーティションを137Gバイト以下に設定してください。または、マルチドライブ機能(12ページ)で、ドライブを137Gバイト以下に設定してください。

Mac OS ⅩでDisk First Aidをかけるとエラーが表示される

原因 **ボリューム(パーティション)の名前に、日本語を使っている**

名前を半角英数字のみを使って付けてください。

ダイナミックディスクの認識方法

参考

この手順は本製品のアイコンが表示されない時の解決方法です
まずは、【本製品のアイコンが表示されない】(93ページ)をご覧ください。

1 「コンピュータの管理」を起動します。

Windows XP

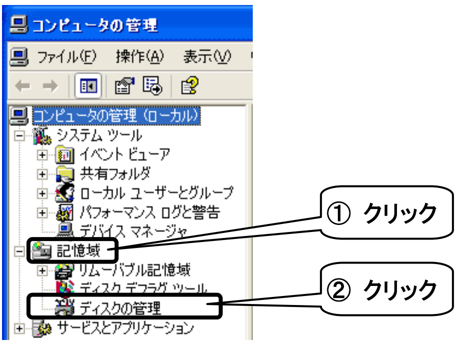
① [スタート] をクリックし、表示された [マイコンピュータ] を右クリックします。
② 表示された [管理] をクリックします。
⇒ [コンピュータの管理] が起動されます。

Windows 2000

① [マイコンピュータ] を右クリックします。
② 表示された [管理] をクリックします。
⇒ [コンピュータの管理] が起動されます。

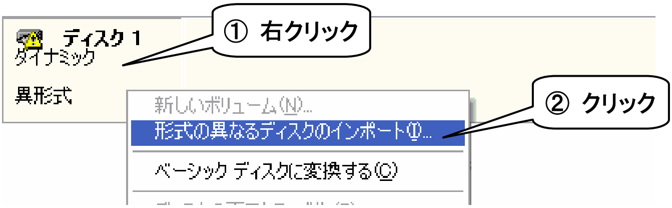
2 [ディスクの管理]をクリックします。

[記憶域] → [ディスクの管理] をクリックします。



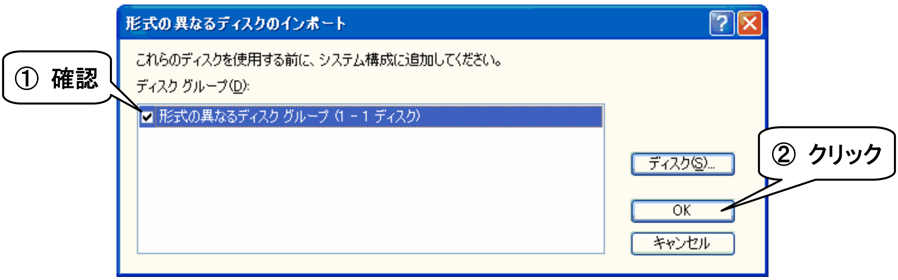
3 「形式の異なるディスクのインポート」画面を表示します。

① 異形式となっているディスクを右クリックします。
② 表示された「形式の異なるディスクのインポート」をクリックします。
⇒「形式の異なるディスクのインポート」画面が表示されます。



4 インポートするディスクを選びます。

① 「形式の異なるディスクグループ（セット）」にチェックが付いていることを確認します。
② ［OK］ボタンをクリックします。
⇒「形式の異なるディスクのボリューム（の確認）」画面が表示されます。

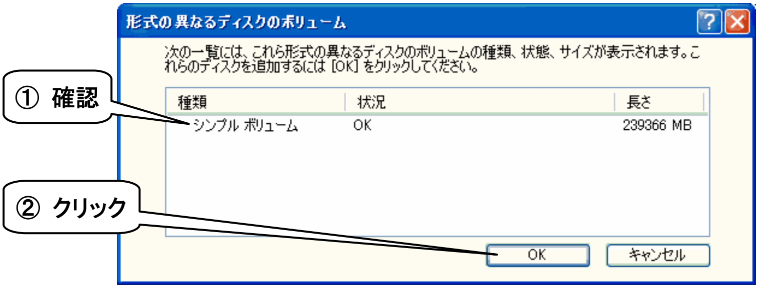


5 インポートするディスクを確認します。

① 内容を確認します。

② [OK] ボタンをクリックします。

⇒ダイナミックディスクの認識が始まります。



6 本製品のアイコンを確認します。

「マイコンピュータ」内に本製品のアイコンがあることを確認します。

以上で認識が可能となります。

参考

ベーシックディスクでお使いになることをおすすめします

データを他のHDDなどにバックアップした後、【フォーマットしよう】(25ページ)をご覧になり、フォーマットしなおすことをおすすめします。

ファイルシステムについて

ファイルシステムについて説明します。

ファイルシステム

ファイルの管理方式のこと。
パーティションは、何らかのファイルシステムを元に作成される。

OS毎の使用できるファイルシステム

OSによって、使用できる（作成できる）ファイルシステムが異なります。
複数のOSでハードディスクを併用する際のパーティションの作成時には、下の表を参照して併用できるファイルシステムを確認してください。

例えば、Windows MeとWindows XPでは、「FAT32」「FAT16(FAT)」のファイルシステムでハードディスクにパーティションを作成（フォーマット）すれば併用できます。（「NTFS」でパーティションを作成すると併用できなくなります。）

使用OS(バージョン)	ファイルシステム		
	NTFS	FAT32	FAT16（FAT）
Windows XP	○	○※1	○※2
Windows 2000	○	○※1	○※2
Windows Me	×	○	○
Windows 98/95 OSR 2	×	○	○
Windows NT	○	×	○※2

○：使用可　×：使用不可

※1 作成できる容量は「32Gバイト」までですが、認識できる容量は「2Tバイト」までであることにご注意ください。
※2 他のOSと併用する場合には、１パーティションのサイズを「2047Mバイト」以下に設定する必要があります。

ファイルシステムとその特徴

ファイルシステム	特徴
NTFS	１パーティションあたりの最大容量は、「約408,000,000Tバイト」です。ただし、Windows Me/98ではアクセスできません。
FAT32	Windows XP,Windows 2000 １パーティションあたりの作成できる最大容量は、「約32Gバイト」です。 ただし、Windows Me/98でフォーマットされたFAT32のパーティションを「約2Tバイト」まで認識できます。 Windows Me/98/95 OSR 2 １パーティションあたりの最大容量は「約2Tバイト」です。
FAT(16)	Windows XP,Windows 2000,Windows NT 4.0 １パーティションあたりの最大容量は、「約4Gバイト」です。 ただし、Windows 98などで使用する場合は、「2,047Mバイト」までにする必要があります。 Windows Me/98/95 OSR 2 １パーティションあたりの最大容量は、「2,047Mバイト」です。

ノーマル⇔マルチドライブで切り替える

ここでは、本製品のモードを「ノーマルモード」から「マルチドライブモード」へ、また逆に「マルチドライブモード」から「ノーマルモード」へと切り替える場合の手順について説明します。

本作業を行うと

本作業を行うと、本製品内に保存された内容はすべて消えてしまいます。
必要なデータを他のハードディスクなどに保存した後で、本作業を行ってください。

モード切替スイッチを切り替える前に

ここの手順では、モード切替スイッチを切り替える前に何らかの作業を行う場合があります。
必ず、手順に沿って作業を行ってください。

Windowsの場合

1 本製品内のすべてのパーティションを削除します。

FDISKなどで本製品内のすべてのパーティションを削除します。
マルチドライブモードでお使いの場合は、両ドライブともパーティションを削除してください。

2 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

3 モードスイッチを切り替えます。

モードスイッチの設定については、【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

4 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

5 本製品を「物理フォーマット」などをします。

SCSIインターフェイスやソフトウェアにより、物理フォーマット、もしくはデータ管理情報の消去を行います。
詳細は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

データ管理情報の消去について
本製品は物理フォーマットに時間がかかります。
データ管理情報の消去を行うことができれば、物理フォーマットを行うよりも短い時間で作業を終わらせることができます。

6 本製品をフォーマットします。

【フォーマットしよう】(25ページ)をご覧になってフォーマットしてください。

Mac OSの場合

1 本製品内のすべてのパーティションを削除します。

フォーマッタソフトなどで本製品内のすべてのパーティションを削除します。
マルチドライブモードでお使いの場合は、両ドライブともパーティションを削除してください。

2 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

3 モードスイッチを切り替えます。

モードスイッチの設定については、【モードを設定しよう】(11ページ)をご覧ください。

4 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

5 本製品をフォーマット・イニシャライズします。

【フォーマットしよう】(25ページ)をご覧になって、フォーマット・イニシャライズしてください。

用語解説

SCSI(Small Computer System Interface)[スカジー]

パソコンとハードディスク、CD-ROMドライブ等の周辺機器を接続するためのインターフェイス規格。

ケンジントンスロット

ケンジントンロックに合うように作られたセキュリティ・スロット。
ケンジントンロックを、固定された安全なもの（机やラックなど）に巻き付けたあと、スロットに差し込んで鍵をかけることで盗難などを防ぐ。

参考

Kensington マイクロセーバー

本製品のケンジントンスロットに合うケンジントンロックです。
詳しくは、こちらのホームページをご覧ください。

http://www.nanayojapan.co.jp/microsaver/index.html

ターミネータ

終端抵抗。
複数のSCSI機器を接続する場合に、終端部分で信号が反射しないように接続する。
SCSIインターフェイスに接続する一番遠いSCSI機器には、ターミネータを接続しなければならない。

フォーマット

ハードディスクを使えるようにするために必要な作業。
他に、イニシャライズや初期化などと呼ぶこともある。

オプション品

●SCSI接続ケーブル(ハイ・インピーダンスタイプ)

型番	長さ	タイプ
A50-A50	75cm	D-subハーフピッチ50ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン
A50-A50-M	50cm	
A50-A50-S	30cm	
A50-A50-SS	10cm	
A50-H50	75cm	D-subハーフピッチ50ピン⇔アンフェノールハーフピッチ50ピン
A50-H50-S	30cm	
F50-A50	75cm	アンフェノールフルピッチ50ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン
AP30-A50	48cm	HDI30ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン
CBSCⅡ-A50-L※	75cm	専用25ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン

※ 弊社製CBSCⅡシリーズ,PCSC-Fシリーズ専用ケーブル。
デイジーチェーン接続にはお使いいただけません。
50cmのデイジーチェーン接続可能なケーブルをバージョンアップ窓口にて案内しております。ご入用の場合はお問い合わせください。

●ターミネータ、変換コネクタ

型番	タイプ
TA-A50	アクティブ・ターミネータ　D-subハーフピッチ50ピン
AD-SC/AH	変換コネクタ　D-subハーフピッチ50ピン(メス)⇔アンフェノールハーフピッチ50ピン(オス)
AD-SC/HA	変換コネクタ　アンフェノールハーフピッチ50ピン(メス)⇔D-subハーフピッチ50ピン(オス)

ハードウェア仕様

●HDXG-Sシリーズ

型式番号	HDXG-S40	HDXG-S80	HDXG-S120	HDXG-S160	HDXG-S250	HDXG-S300
データ容量(バイト)※	約40G	約80G	約120G	約160G	約250G	約300G
セクタサイズ	512Bytes					
外形寸法	131(H)×42(W)×265(D)mm（突起物含まず）					
インターフェイス仕様	Ultra SCSIインターフェイス（D-subハーフピッチ50ピン）					
データ転送速度(最大)	Ultra SCSI　20MB/sec(同期転送理論値) SCSI-2　10MB/sec(同期転送理論値) SCSI-1　5MB/sec(同期転送理論値)					
電源仕様	AC100V±10%　50/60Hz					
使用湿温度範囲	温度+5～+35℃（パソコンの動作する範囲であること） 湿度20～80%（結露なきこと,PC動作範囲であること）					
消費電力	約12.0W					
本体質量	約1.4Kg					

※ 本容量は、アンフォーマット時1Mバイト＝1,000,000バイト、
1Gバイト＝1000Mバイトで計算したときの値を示しています。
フォーマット後は若干容量が減少します。

サポートセンターへのお問い合わせ

本製品に関するお問い合わせは弊社サポートセンターで受け付けています。

1 まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書の【困った時には】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、News」などもご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考になさってください。

http://www.iodata.jp/support/ ← 製品Q&A, Newsなど

また、添付のサポートソフトをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/ ← 弊社サポートライブラリ

2 それでも解決できない場合は・・・

住所： 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター

電話： 本社…**076-260-3367** 東京…**03-3254-0340**
※受付時間 9:30〜19:00 月〜金曜日（祝祭日を除く）

FAX： 本社…**076-260-3360** 東京…**03-3254-9055**

インターネット： http://www.iodata.jp/support/

参考

お知らせいただく事項について

1. ご使用の弊社製品名。
2. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
3. ご使用のサポートソフトのバージョン。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態
（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●内部のデータについて

・検査の際には、内部のデータはすべて消去されてしまいます。
（厳密な検査を行うためです。どうぞご了承ください。）

※データに関しては、弊社はいっさいの責任を負いかねます。
バックアップできる場合は、修理にお出しになる前にバックアップしてください。

・弊社では、データの修復は行っておりません。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。

※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。

※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）
修理しないとご判断いただきました場合は、無料でご返送いたします。

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号（製品に貼付されたシールに記載されています）、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）

※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの

返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,
ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。

※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は、下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。

※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理センター　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。

※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
3) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
4) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
5) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
6) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
7) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
8) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
9) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
10) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。
また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
12) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
13) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

HDXGシリーズ 取扱説明書
2003.11.26 93463-05
発 行　株式会社アイ·オー·データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地